



日本地球化学会ニュース

No. 194 August 2008

Contents

2008年度日本地球化学会年会のお知らせ(3).....	2
第3回地球化学会ショートコースのお知らせ.....	4
学会評議員会議事録.....	4
2008年度第1回	
研究集会などのお知らせ.....	8
AOGS（アジア大洋州地球科学会）2008年大会（6/16～20）報告	
2008年ゴールドシュミット国際会議（7/13～18）報告	
院生による研究室紹介 No. 10	10
秋田大学大学院地球資源学研究科地球資源学専攻 金属鉱床学研究室	
2008年度日本地球化学会年会プログラム	

2008年度日本地球化学会年会のお知らせ(3)

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会，日本鉱物科学会，日本地質学会

会期：平成20年 9月17日(水)～19日(金)

会場：東京大学教養学部12号館，13号館

東京都目黒区駒場3-8-1

京王井の頭線「駒場東大前」下車（急行は停車しませんのでご注意ください）

P. 3の地図を参照ください。

内容：口頭発表及びポスター発表（今回は初めての試みとして，すべての発表を28のセッションの中で行います），総会，学会賞記念講演，夜間小集会，懇親会

口頭発表は，A～Fの6会場に分かれて行います。総会，学会賞記念講演，夜間小集会はA会場，ポスター発表，懇親会は生協食堂2階で行います。

若手優秀ポスター賞：きわめて優れたポスター発表を行った日本地球化学会学生会員に授与します（受賞者発表は懇親会の際に行います）。選考方法などについては後日，ホームページなどでお知らせいたします。

プログラム：本ニュースの末尾に掲載するプログラムをご覧ください。講演要旨は8月末に，J-STAGE上（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/geochemproc-char/ja/>）で公開されます。なお，今回は要旨集の配布を事前送付では行わず，学会当日に行います。

年会当日の受付：13号館1階のロビーで，初日の9時から開始します。

口頭発表について：口頭発表時間は，招待講演の一部を除き，討論を含めて15分です。講演を12分以内で終了し，3分の討論時間を残すようにしてください。10分で第1鈴，12分で第2鈴，講演終了で第3鈴が鳴ります。なお，招待講演には討論時間も含めて20分の場合がありますが，詳しくはプログラムをご覧ください。発表には各会場で液晶プロジェクター1台のみ使用できます。Microsoft社のPowerPoint 2007をインストールしたノートパソコン（OSはWindowsXP）を用意します。発表者は上記システムで実行可能な発表用ファイルをUSBメモリまたはCD-Rに記録して持参し，発表されるセッション前の休憩時間に各会場のノートパソコンに入れて動作を確認してください。3日目の朝一番のセッ

ションで発表される方は，できるだけ前日のうちに確認ください。上記以外のシステム（Mac，Keynoteなど）は極力避けていただきたいのですが，使用を希望される方はご自身で使うパソコンやシステムを持参の上，発表の2講演前までには液晶プロジェクターの脇で待機してください。

ポスター発表について：ポスターボードのサイズは縦180 cm×横90 cmで，各パネルボードには発表番号を示してあります。掲示するポスターの左上角には，ポスター番号を目立つように明記して下さい。掲示に使用する画鋏などは実行委員会で用意しますので，会場で受け取ってください。ポスター発表は初日（9月17日）と2日目（18日）と張り替えて行ないます。ポスター番号が1 Pxxは初日発表，2 Pxxは2日目発表で，両日とも昼食の休憩時間中に掲示してください。初日には13時00分から14時20分まで，2日目には13時30分から14時50分まで，それぞれ1時間20分間のコアタイムが設けられています。発表者はコアタイムには必ずポスターの前に立って説明を行ってください。なお，両日ともポスターはコアタイム終了後1時間以内に必ず撤去してください。それ以後も掲示しているポスターは，実行委員会が処分しますのでご注意ください。

参加予約申込：年会 web page (<http://db1.wdc-jp.com/geochem2008/>) から，指示に従って申し込んでください。予約申込は8月29日(金) 14時締切。これ以後は，当日受付をご利用ください。

参加登録費：（講演要旨集1部含む）

予約：一般会員5,000円，学生会員3,000円，
会員外7,000円，会員外学生4,000円

当日：一般会員6,000円，学生会員4,000円，
会員外8,000円，会員外学生5,000円

*なお，会員は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します。当日受付で入会申込された方も会員扱いとします。

懇親会：9月18日18時より生協食堂2階にて。

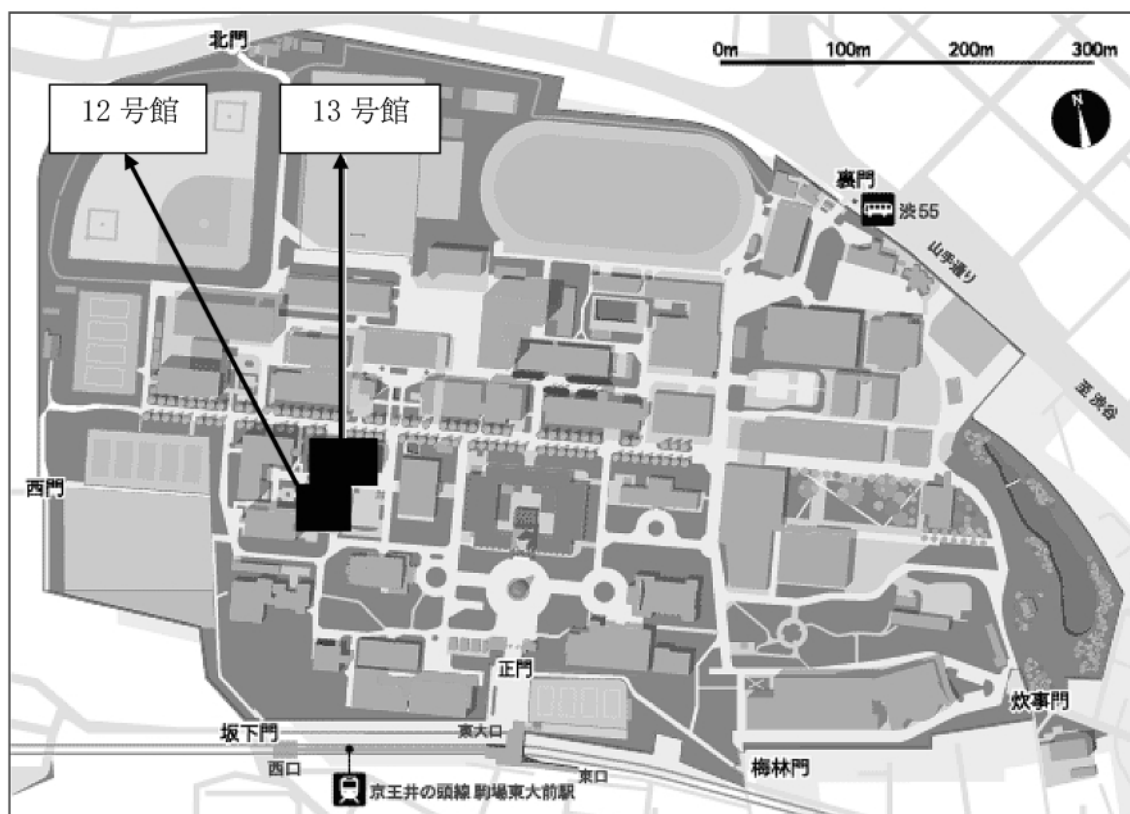
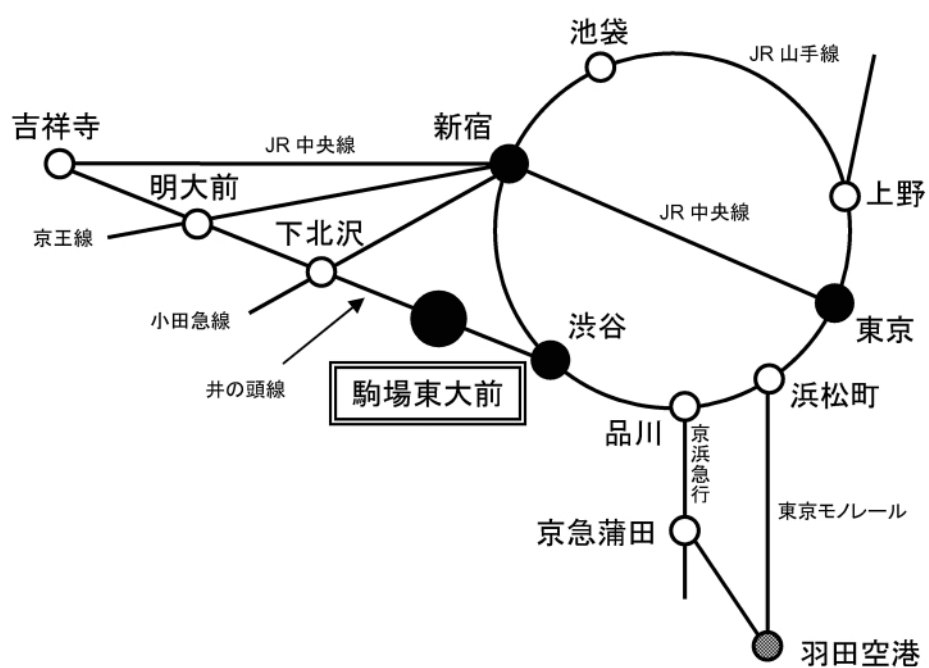
予約5,000円（学生3,000円），当日6,000円（学生4,000円）。

追加の講演要旨集：3,000円／部（当日手渡し）（後日郵送の場合は3,500円／部）。

併設展示：関連機器メーカーその他による展示会を13号館2階及び1階ロビーにて開催します。多数の方のご来場をお待ちしております。

その他：実行委員会では宿泊／航空券等の斡旋はいた

2008 年度日本地球化学会年会会場(東京大学駒場キャンパス)への案内



しません。各自お早めに手配ください。

年会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院理学系研究科 地殻化学実験施設内

Fax: 03-5841-4119

e-mail: gj2008-help@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp

●第3回日本地球化学会ショートコースのお知らせ

主旨: 地球化学は、試料を構成する元素、同位体、化学種の存在度、分布、移動、変化を空間的・時間的に調べ、それらを支配する法則や原理を見いだすことにより、地球や惑星を構成する物質の構造や循環を調べる学問である。分析・データ解析技術の進歩により、試料から得られる地球化学的知見の質と量は飛躍的に向上し、今では、鉱物学、岩石学、地質学、地球物理学など、他の地球科学分野の発展を支える重要な学問となっている。しかしその一方で、地球化学の応用性・実用性のみが注目され、地球化学の本質である現象の素過程を調べる研究が少なくなるとともに、時間をかけてじっくり調べ、問題点を徹底的に掘り下げて理解する機会も減少するという問題も顕在化している。こうした問題に対し、日本地球化学会では地球化学講座の発行を通じて地球化学の啓蒙を進めてきた。そして日本地球化学会では、次なる啓蒙活動として、大学生・大学院生を対象とした「ショートコース」を、年会日程(平成20年9月17, 18, 19日)に合わせ、9月16日に開催する。本ショートコースでは、地球化学を研究する上で必須となる基礎知識の包括的修得と、最先端研究に触れることによる視点の拡大、という次の二つの目標を掲げ、将来の地球化学を担う若手研究者の育成を目指す。

プログラム:

はじめに(9:30~) 平田岳史(東工大)

「Inquisitiveness and Chastity in Science」

講義1(9:40~) 吉岡正和(高エネ研)

「加速器づくりと地球科学」

講義2(11:00~) 横山祐典(東大)

「加速器質量分析とTIMSによって明かされる地球環境変動」

昼食(12:20~)

講義3(13:20~) 横山哲也(東工大)

「太陽系形成初期の同位体不均一と元素合成」

講義4(14:40~) 上野雄一郎(東工大)

「硫黄同位体からみる古環境」

講義5(16:00~) 横山広美(東大)

「研究者と科学コミュニケーション」

Closing(17:45~18:00)

定員・申込締切: 50名(先着順)。9月5日(金)を参加申込締切日としますが、定員になり次第参加申し込みを締め切らせて頂きます。主として本学会の学生会員を対象としますが、特にこだわりませんので非会員あるいは年配の方も参加可能です。

参加費: 3,000円(講師謝金費、資料代、弁当代等を含む)。当日受付でお支払い頂きます。日本地球化学会の学生会員は学会からの補助により2,000円引とします。

申込み方法: ホームページ(<http://db1.wdc-jp.com/geochem2008/short.html>)から申し込み用紙(エクセルファイル)をダウンロードし、必要事項を記入の上、ショートコース申し込みアドレス「short-course2008@geo.titech.ac.jp」までお送り下さい。なおメールの件名には「2008年ショートコース申込」と明記下さい。

(行事幹事・平田岳史)

学会評議員会議事録

●2008年度第1回

日時: 2008年2月16日(土) 13:00~17:45

場所: 東京大学 山上会館001

出席者: 蒲生俊敬会長、石橋純一郎、小畑元、佐野有司、鈴木勝彦、平田岳史、益田晴恵、南雅代(以上幹事)、天川裕史、岩森光、鍵裕之、北逸郎、瀧上豊、奈良岡浩、野尻幸宏、日高洋、松尾基之、三村耕一、柳沢文孝(以上評議員)、松久幸敬(監事)

1. 会長挨拶

蒲生会長から会長就任の挨拶があった。

2. 2008~2009年度新評議員の追加承認

瀧上豊会員を新評議員として追加承認した。

3. 2008~2009年度幹事の承認

2008~2009年度各幹事(石橋ニュース幹事、小畑庶務幹事、佐野GJ編集幹事、鈴木広報幹事、平田行事幹事、益田地球化学編集幹事、南会計幹事)を

承認した。

4. 2007年度第3回評議員会議事録の承認

2007年度第3回評議員会議事録を承認した。

5. 報告事項

- (1) 庶務（小畑幹事）：【科学研究費補助金】（日本学術振興会）平成20年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「定期刊行物」（GJ）計画調書提出（11/13, 6,740千円）；日本学術振興会による平成18年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「定期刊行物」に関する実地調査および意見交換（12/21）；平成19年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「定期刊行物」の実績報告書提出（2/6）。【研究助成等】日産科学振興財団・日産科学賞候補者を推薦した。

【後援・共催等】（共催）日本質量分析学会「第56回質量分析総合討論会」（2008/5/14～16）；（社）日本原子力学会「原子力総合シンポジウム2008」（2008年5月），運営委員として村松康行会員を推薦；第7回核融合エネルギー連合講演会組織委員会「第7回核融合エネルギー連合講演会」（2008/6/19～21）；（社）日本アイソトープ協会「第45回アイソトープ放射線研究発表会」（2008/7/2～4）。【その他】（株）国際文献印刷社との情報通信業務基本委託契約；故猿橋勝子名誉会員への弔電・供花（10/22），故小穴進也名誉会員への供花（11/15），故半谷高久名誉会員への弔電・供花（1/18）；「地球化学」への広告募集を行なった（1/31締切）；学会賞各賞・鳥居基金への推薦・応募状況（1/31締切）：奨励賞6名，学会賞2名，柴田賞2名；鳥居基金（海外渡航4名，国内研究集会2件）。【幹事会】2008年2月9日13：00～ 第1回評議員会の議事内容について整理した（出席：蒲生・海老原・石橋・小畑・佐野・鈴木・角皆・平田・益田・南の各幹事）。

また，評議員に対して，ウェブ広告宣伝の依頼があった。6月のメールによる評議員会については，幹事会などで具体案を検討することとなった。

- (2) 会計（南幹事）：「地球化学」掲載の広告費が納められていないため，2007年度会計が閉じられていないとの報告があった。

- (3) 会員異動（2007/9/1～2007/12/31）（角皆会員幹事，代理で蒲生会長が説明）：

【入会】

（9月）

一般会員

9282478 吉武美和 ヨシタケミワ

神戸大学理学研究科地球惑星科学専攻 惑星物質科学研究室

学生会員（学生バック）

9282480 昆 慶明 コンヨシアキ

東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻

9282491 岨 康輝 ソワコウキ

北海道大学大学院理学院自然科学専攻
地球システム進化グループ

（10月）

一般会員

9282501 玉城喜章 タマキヨシアキ

琉球大学理学部海洋自然科学科（化学系）

9282503 関根康人 セキネヤスヒト

東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻

学生会員（学生バック）

9282495 白石智一 シライシトモカズ

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻 松田研究室

（11月）

学生会員（学生バック）

9282499 丸山匡臣 マルヤマサオミ

日本大学総合基礎科学研究科相関理化学専攻 放射化学研究室永井教授

9282502 竹谷 裕 タケタニユタカ

東北大学大学院理学研究科地学専攻

（12月）

一般会員

9282504 高田将志 タカダマサシ

奈良女子大学文学部地域環境学コース

【退会】

（9月）

学生会員

9282429 山崎俊輔

（10月）

名誉会員

8280501 猿橋勝子 2007/9/29ご逝去

（11月）

名誉会員

9280399 小穴進也 2007/11/13ご逝去

（12月）

正会員

9282364 GUPTA, Lallan Prasad

1281059 高城裕之
 1281190 大田啓一
 1282326 蓑島佳代
 2280310 水谷伸治郎
 3280045 福田一義
 6280066 合田四郎
 6281333 横田喜一郎
 6281656 北村守次
 6282279 森山文基
 8280307 三谷明恒
 8280879 星加 章
 学生会員
 4282273 椎根 大
 8282327 萬福真美
 9282357 山本和幸
 シニア会員
 3280272 馬淵久夫
 5280483 斉藤信房
 6280312 水谷義彦

【除名】

(9月)

(一般会員：10名) 平良初男，植山洋一，野上健治，山口学，GUODONG ZHENG，加藤喜久雄，SEMET MICHEL P., JOHEMKO JEROME，フジイ M ヤスオ (学生会員：5名)，佐久間英輔，辻寛之，呉佳紅，羅琰泰，井上由美子

【変更】

(9月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
1282229	辻 寛之	一般会員	学生会員

(12月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
3282258	JENKINS, ROBERT	学生会員	一般会員
9282424	坂本直哉	学生会員	一般会員
3280294	松永捷司	一般会員	シニア会員
6280680	脇田宏	一般会員	シニア会員
8280233	清棲保弘	一般会員	シニア会員

2007年12月31日現在の会員数

	正会員	(一般)	(学生)	(学生) (修士/バック)	(シニア)	賛助会員	名誉会員	計	海外会員
2007.8.31	941	(761)	(67)	(56)	(57)	11	12	964	40
入会	9	(4)		(5)				9	
退会	-19	(-12)	(-4)		(-3)		-2	-21	
除名	-15	(-10)	(-5)					-15	-3
変更		(-2)	(-1)		(3)				
除名取消	1	(1)			(-1)			1	
2007.12.31	917	(742)	(57)	(61)	(57)	11	10	938	37

会員異動 (2008/1/1～2008/1/31) (角皆会員幹事，代理で蒲生会長が説明)：

【入会】

(1月)

一般会員

9282505 星野美保子 ホシノミホコ
 筑波大学生命環境科学研究科地球進化科学専攻 木股研究室

9282512 杉原永一 スギハラエイイチ
 三井化学株式会社袖ヶ浦センター 総務グループ健康管理室

学生会員 (学生バック)

9282508 松岡かおり マツオカカオリ
 東京農工大学大学院連合農学研究科

【退会】

名誉会員

7280092 半谷高久 2008/1/17ご逝去

一般正会員

9282212 半澤有希子

学生正会員

9282422 森 美佳

【変更】

(1月)

会員番号	会員名	変更前	変更後
9282370	小岩嘉隆	学生バック	学生正会員
9282379	齊藤友比古	学生バック	学生正会員
9282382	賞雅朝子	学生バック	学生正会員
9282383	今野祐多	学生バック	学生正会員
9282384	嶋本洋子	学生バック	学生正会員
9282385	吉野 徹	学生バック	学生正会員
9282394	荒川 雅	学生バック	学生正会員
9282397	武田匡樹	学生バック	学生正会員
9282398	中尾俊夫	学生バック	学生正会員
9282399	竹内ふみ	学生バック	学生正会員
9282400	宮川和也	学生バック	学生正会員

9282401	中村真仁	学生バック	学生正会員
9282405	山根雅子	学生バック	学生正会員
9282406	岡崎寛大	学生バック	学生正会員
9282407	川島龍憲	学生バック	学生正会員
9282410	小竹翔子	学生バック	学生正会員
9282412	福本 塁	学生バック	学生正会員
9282416	深澤 真	学生バック	学生正会員
9282417	内山嘉子	学生バック	学生正会員
9282421	若林貴弘	学生バック	学生正会員
9282422	森 美佳	学生バック	学生正会員 (自動変更後に退会届)
9282423	中村英人	学生バック	学生正会員
9282431	堀口桂香	学生バック	学生正会員
9282432	徳竹大地	学生バック	学生正会員
9282433	小林紗由美	学生バック	学生正会員
9282436	新原隆史	学生バック	学生正会員
9282438	金子雅紀	学生バック	学生正会員
9282440	加藤智樹	学生バック	学生正会員
9282359	栗崎弘輔	学生正会員	一般正会員
9282389	宮川千絵	学生正会員	一般正会員
9282413	光延 聖	学生正会員	一般正会員

2008年1月31日現在の会員数

	正会員	(一般)	(学生) 通常	(学生) (修士バック)	(シニア)	賛助会員	名誉会員	計	海外会員
2007.12.31	917	(742)	(57)	(61)	(57)	11	10	938	37
入会		2		1					
退会		-1	-1				-1		
種別変更		3	-3						
(2年経過により移行)			28	-28					
2008.1.31	918	(746)	(81)	(34)	(57)	11	9	938	37

(4) 編集：

- GJ (佐野幹事)：新編集委員会の組織について説明があった。欧米からの投稿が増えるよう、新たに Vice Executive Editor を置く。Express Letter については、今後宣伝を積極的に行う予定。
- 地球化学 (益田幹事)：2007年度の編集状況について説明があった。14編の原著論文を受付、うち7編を受理、5編を審査中、2編を却下した。総説は3編を受付、うち2編を受理、1件が審査中である。記念論文は3編を受付、受理した。博士論文抄録は1編を受付、受理した。その他を1編受付、受理した。現在は7編の原著論文と1編の総説を審査中である。また、編集委員会を2回行った。受け付けるにあたって問題のある論文に

ついて、対応が検討された (審議事項参照)。

- ニュース (石橋幹事)：ニュース記事の構成について説明があった。
 - 広報 (鈴木幹事)：学会 HP の Q&A について、評議員に回答協力の依頼があった。また、国際文献印刷との「ホームページ作成業務」「大会関連業務」の業務委託契約書について報告があった。
- (5) 行事 (平田幹事)：
- 2007年年会報告：年会 LOC の奈良岡評議員から2007年度年会について、財政、国際文献印刷との交渉経緯が報告された。また、講演締切と要旨締切を一緒にする方が良いとの提案があった。
 - 2008年日本地球惑星科学連合大会：今年度は5/25～30にかけて幕張メッセ国際会議場で開催される。共催のセッションについては、行事幹事に報告してほしい旨、依頼があった。
 - 2008年ゴールドシュミット国際会議：今年度は7/13～18にかけてカナダ・バンクーバーで開催される。学会から3,000ドルの寄付を行うこと、この寄付は学生の旅費補助に使用されること、日本地球化学会のブースを設けること、パンフレットを参加者のバックに入れ配付すること、GJ 賞の授賞式をプレナリーセッションで行うこと、今回は登録料の割引がないことが報告された。また、GJ 賞の説明については、テラパブからの副賞を辞退することが会長から報告された。代わって、篤志家からの寄付を受け、副賞を1件33万円とすることとなった。
 - 2008年年会準備状況：2008年度年会の準備状況について、大会実行委員長の松尾評議員から説明があった。今年度は2008年9/17～19に東京大学駒場キャンパスで行う。講演受付と要旨受付を一緒に行うこと、講演はすべてセッションテーマ制で行うことなど例年との違いが説明された。セッションテーマは公募し、採用されたテーマについては、コンビナーが主に編成を考える。2/10：セッションテーマ締め切り、4/1：ホームページ開設、7/14：講演受付・要旨提出締切、8/29：事前登録締切、9/16に第3回ショートコースを行う予定である。
 - 第2回ショートコース・アンケート結果：第2回ショートコースが2007年度年会前日 (9/18) に行われ、盛会に終わったことが報告された。

(6) 各種委員会

- a. 各種委員会の委員構成について、以下の委員会委員が承認された。2008～2009年度名誉会員推薦委員会は海老原充副会長が委員長を務め、野津憲治会員、田中剛会員、松田准一会員（以上、会長経験者）、野尻幸宏会員、角皆潤会員（以上評議員）が委員となることが提案され、承認された。2008～2009年度将来計画委員会は海老原充副会長が委員長となり、鍵裕之会員、奈良岡浩会員、平田岳史会員、益田晴恵会員（以上評議員）、三澤啓司会員、山本鋼志会員、山下勝行会員が委員となることが提案され承認された。新たに設置される2008～2009年度広報委員会については、鈴木勝彦広報幹事が委員長を務め、小木曾哲会員、折橋裕二会員、橘省吾会員、山本鋼志会員が委員となることが提案され承認された。
- b. 日本地球惑星連合第6回評議員会に出席した鍵評議員より、法人化やセクション制について報告があった。また、2008年3/14には討論会と拡大評議会が開催されるため、評議員から数名が参加することが確認された。
- c. 日本地球惑星連合各種委員会の活動状況に関して、教育問題検討委員会について、瀧上評議員から現在の進捗状況についての説明があった。また、国際地学オリンピック日本委員会について説明があり、日本地球化学会に対しても支援要請があった。協賛金1口10万円の支援が認められた。男女共同参画推進委員会について天川評議員から説明があった。科研費の助成審査員拡大に関して協力要請があったが、状況の推移を見守ることとなった。
- d. 学術会議におけるIAGC対応小委員会の状況について、海老原副会長に代わって蒲生会長が現状を説明した。IAGCはIUGS分科会の下に分属することとなった。また、IUGSの年報に、日本地球化学会の活動を寄稿したことが報告された。
- e. 地球化学講座の編集状況について、松久監事から2/28に第2巻が発行される予定であるとの報告があった。残る第8巻についても大部分の原稿が集まり、近日刊行される見込みであることが報告された。

6. 審議事項

- (1) 国際文献委託業務の契約（小畑幹事）：2008年度国際文献印刷への学会業務委託契約書について説明

があった。2008年度にかかる費用の予測が示され、新しい契約書が承認された。

- (2) 学生会員（学生バック加入者）宛のリマインドについて（角皆幹事に代わって蒲生会長から説明）：今年度から学生バック会員の学生会員への自動種別変更が行われるようになった。退会する学生バック会員には、2月末まで手続きの猶予期間を設けるという提案が行われた。また、この変更についてリマインドのメールを流すことも提案された。審議の結果、この新しい手続きで種別変更することが認められた。
- (3) GJの出版形態について（佐野幹事）：電子化を進める際の問題点について議論を行い、幹事会を中心に必要な手続きを準備することが承認された。また、非会員のGJへの投稿が増加しつつあることから、ページチャージの可能性についても今後検討していくことが承認された。
- (4) 「地球化学」について（益田幹事）：編集委員会から、論文投稿に対して一定の指針を出すという提案が行われた。また、二重投稿などの事態に対応するため、編集委員会で内規を作ることが提案された。その基準については、編集委員会の判断に委ねることが承認された。
- (5) 第3回ショートコースについて（平田幹事）：2008年年会前日に第3回ショートコースを行うことが認められた。経費の一部について、学会が補助することも確認された。
- (6) ニュースの電子化（石橋幹事）：人事公募など、時期的なニュースについては、メールを活用し、印刷はしないことが認められた。会員の交流に繋がるページは従来のままとする。
- (7) 「地球惑星化学の事典」（仮題）編集・出版計画について（蒲生会長）：「地球惑星化学の事典」という企画について提案があり、出版をすすめることが認められた。

7. 次回幹事会・評議委員会の日程

幹事会 5月31日(土) 13:00～ 東京大学
評議員会 6月中旬にメールによる会議

研究集会などのお知らせ

●AOGS（アジア大洋州地球科学会）2008年大会報告
アジア大洋州地球科学会（Asia Oceania Geosciences Society）の2008年大会（AOGS 2008）が、

6月16日から20日の日程で、韓国・釜山で開催されました。会場となったBEXCO (Busan Exhibition & Convention Center) は、釜山の東部にあるリゾート地、海雲台(ヘウンデ)にほど近い、センタムシティーと呼ばれる地区にあります。センタムシティーは、数年前から開発が始まった新しい街らしく、どことなく幕張に似た雰囲気を感じました。

会場では、大気・水文・海洋・惑星・太陽地球系・固体地球の6分野のセッションが、16部屋に分かれて開催されました。地球化学関係のセッションはそれほど多くありませんでしたが、その分、他の分野のセッションを聞く余裕もあったので、なかなか刺激的な時間を過ごすことができました。残念だったのは、講演のキャンセルがあまりに多かったことです。私が発表したセッションでは、講演予定者の半数以上が会場に現れず、発表したのはたったの5人、という寂しい状況でした。

今回は、日本地球化学会で展示ブースを出すことはしませんでした。学会の英文パンフレットと Geochemical Journal のCD および Express Letter のチラシを、日本地球惑星科学連合のブースに同連合事務局の御厚意で置かせていただくことができました。また、パンフレットとチラシの一部は、広報幹事の鈴木さんと私で分担して、知り合いに配って歩きました。学会および Geochemical Journal のアジア大洋州地域での知名度を上げることに、多少は役に立ったのではないかと思います。

AOGS の公式発表によれば、今回は1,700人を超える参加登録があったそうですが、キャンセルを除くと、実際の参加者は1,000人強程度ではないかと推測されます。アジアの中では日本から一番近い都市で行われたにも関わらず、意外と日本人が少ないという印象を受けました。AOGS は毎年開催されるので、アジア大洋州地域の研究者との交流を深めるのに非常に良い機会だと思います。来年以降、日本地球化学会から更に多くの方が積極的に参加されることを願っています。

(広報委員・小木曾哲)

●2008年ゴールドシュミット国際会議報告

2008年のゴールドシュミット国際会議はカナダ・バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学を会場として7月13日から18日までの5日間の日程で開催されました。通算18回目を数える今回は初めてカナダでの



図1 地球化学会ブースを訪れたGJ副編集長のPintiさん

開催となります。毎年開催される地球惑星化学の国際会議として参加者は増加傾向にあり今回は2,000人以上の参加者を得たということです。発表された総論分数は2,207件でそのうち1,211が口頭発表されました。事前にウェブサイトで自分の興味のある発表の一覧を作成して表示する機能が提供され、会場でワイヤレスでのネットワーク接続が無料で利用できたおかげで、冊子体で供給されるプログラムを捲ることなく計画を練ることができました。発表会場となった教室の机にも電源が提供されるなどパソコンを使用するインフラが大変整っているのが印象的でした。また、バンクーバーは世界一清潔で緑豊かな健康な町を目指しているということで学会の運営にも Sustainability を強く意識していることが強調されていました。USB メモリーでアブストラクトが提供されたことや、各会場に参加者用の飲料水タンクが設置されておりペットボトルの再利用を促していた点など、例年とは少し趣が変わっていたことに気づかれた参加者も多かったのではないのでしょうか。一方で、会場の配置が少し不案内なこともあり、初日には多くの参加者が迷っている光景が見られました。また、発表時間の遵守が徹底されていなかったためにせっかく会場を移動しても目当ての発表にありつけなかったりしました。座長のさじ加減で発表時間が増減してしまい(それは議論が活性化するという面もあるのですが)時間の割り振りで不公平があった印象もぬぐえません。

さて、日本地球化学会では学会のPRの一環として、参加者に配布されるバッグの中に学会のパンフレットと Geochemical Journal 誌にて最近開始した Express Letter のちらしを同封してもらいました。また、ポスター会場ではブースを設けて GJ の論文を



図2 地球化学会ブースで対応する広報委員

収めた CD-ROM や冊子体の GJ を無料で配布しました。特に CD-ROM は人気が高く用意した100枚はすべて配布しました。現場での入会受付も同時に行い、若干名ですが会員の増加に貢献することもできました。例年通り GJ 賞の受賞式も行われ、日本地球化学会としては一定の存在感を示すことができたのではないのでしょうか。反面、今年度は残念ながら学会員を対象とした登録費減免の処置は行われませんでした。協賛学会として金銭的な援助を行っていることが、会員の皆さんには目に見える形として還元されなかったことは残念だったと思います。これと直接は関連しませんが、今回は日本国内の大学や研究機関所属の研究者の口頭発表数は36件（ポスターは82件）でした。過半数が口頭発表という全体の割合と比べると、口頭発表での日本からの参加者の存在感はもう少しあっても良いのではないのでしょうか。ポスター発表の方がじっくり議論ができるというメリットがあり、あえてポスター発表を選択し面と向かって十分な議論を尽くすことを選んだ方がいるのも確かですが、口頭発表で自分達の成果をもっとアピールすることを全ての世代の研究者が意識すれば自然と日本地球化学会の存在感も増し、会員数や GJ への注目度などにもプラスに働くのではないかと思います。最後に、地球化学会のブースは学会員の皆さんのポスター会場での拠点として、また情報交換の場として、そして待ち合わせ場所として便利に利用していただけますので、来年度以降も是非気軽にお立ち寄り下さい。

（広報委員・松本拓也）



院生による研究室紹介 No. 10

秋田大学大学院工学資源学研究科地球資源学専攻
応用地球科学講座 金属鉱床学研究室

森 康治

今回は秋田大学大学院地球資源学研究科地球資源学専攻応用地球科学講座金属鉱床学研究室の紹介をさせていただきます。金属鉱床学研究室には、水田敏夫教授、細野高啓助教、佐藤比奈子技術職員の3人の教職員と、博士後期課程大学院生3名、前期課程大学院生4名、学部4年生9名、の計19人（2008年4月現在）が所属しています。さらに、本研究室の協力研究グループとして工学資源学部附属環境資源学研究センターの石山大三教授、川原谷治技術職員がいます。

今年度（2008年度）学生が行っている主な研究内容は、タイ国北部の浅熱水性金鉱床の金鉱化作用と鉱床



図1 タイ北部の浅熱水性金鉱床で含金石英脈（中央白色部）のサンプルを観察・採集しております。縦に刻まれた溝は発破用ダイナマイトを仕込むためのボーリング跡です。



図2 四重極型 ICP 質量分析計

成因モデル，山形県ベントナイト（モンモリロナイトを主体とする粘土）鉱床の形成過程について，秋田県東部の休廃止鉱山における鉱排水の地球化学的特徴とその影響について，埼玉県秩父鉱山における花崗岩類とスカルン鉱化作用の関連性について，新潟県中部天然ガス田における火山岩の貯留岩性状とその孔隙形成プロセスについて，秋田県北部黒鉱鉱床の鉱化作用プロセスについてなどを行っています。中でもタイの浅熱水性金鉱床についての研究では，水田教授とともに筆者と4年生1人の3人で10日間の現地調査を行っています。

この研究室の一番の特徴は，積極的に受け入れている留学生にあります。本研究室では，マレーシア1人，ガーナ1人，ミャンマー2人，パプアニューギニア1人と，計5人の留学生が院生として在籍しています。留学生の方たちも主に母国に関連した鉱化作用について研究を進めております。マレーシアからの留学生 Adong Bin Laming さん（アドン・ビンラミング：博士後期課程3年）は，東マレーシア Sabah 州 Seporna 半島，Mt. Pock における浅熱水性 Au 鉱化作用について，ガーナからの留学生 Adomako-Ansah Kofi さん（アドマコ・アンサ・コフィ：博士後期課程1年）は，鹿児島県菱刈浅熱水性 Au-Ag 鉱床の地質学的・地球化学的特徴について，ミャンマーからの留学生 Htay Thura Kyaw さん（ティ・トゥラ・ジョウ：博士前期課程2年）は，秋田県大館地域の黒鉱鉱床及び関連する火成活動の地球化学的特徴の研究を，パプアニューギニアからの留学生 Paul Moia Kia さん（ポール・キア・モイヤ：博士前期課程2年）は，パプアニューギニアの Creator Mountain における地質と鉱化作用についてそれぞれ研究しております。



図3 山野に自生するタラの芽やヤマソテツ（秋田名：コゴミ）を先生自ら調理。周囲を山に囲まれた秋田ならではの光景です。

金属鉱床学研究室では，鉱物資源の形成機構の解明を目的として，1）黒鉱鉱床や浅熱水性 Au-Ag 鉱床，スカルン鉱床の鉱化作用といったオーソドックスな研究，2）石油ガス田における火山岩類の変質作用の地球化学的特徴とその貯留岩性状の研究，3）休廃止鉱山の鉱山排水の地球化学的な特徴とその処理についての研究など，その研究分野は多岐にわたっております。

本研究室は第一に，野外における地層や岩相分布，岩石，鉱石の産状を把握することに重点を置いた調査を行います。そこで採取したサンプルは，薄片観察や X 線回折装置（XRD），X 線マイクロアナライザー（EPMA）を用いて岩石・鉱物の組織や鉱物組み合わせの検討，鉱物の同定をしております。そして，蛍光エックス線分析装置（XRF）やレーザーアブレーション付き四重極型 ICP 質量分析計（LA-ICP-MS）を用いて全岩化学組成や微量元素組成データをもとに，岩石の初生的な特徴と変質作用の特徴を明らかにします。さらに石英や斜長石といった白色～透明鉱物中の流体包有物を加熱・冷却することで鉱物が形成した時の温度・圧力条件を推定し，鉱物資源形成時の物質循環について考察し，資源探査における新しい概念やその手法についての検討を行っています。これらの実験は，基本的には学生自身が先輩から習い，後輩へと伝えていくことで技術の継承を行っておりますが，LA-ICP-MS の分析については，佐藤比奈子技術職員を中心に行っています。

秋田は比較的山が多く，春には山菜が，秋にはキノコが採集できます。野外調査に出掛けた際に，採集し



図4 2007年11月に行われたIGCP 502ワークショップの記念写真。世界各国から鉱床学者が秋田に集まって、黒鉱鉱床及び関連する火成活動をテーマとしたシンポジウムと巡検を行いました。

てきた山菜で楽しいひと時を過ごすことがしばしばあります。研究は遠く海外をフィールドにする場合もありますし、地域と密着した研究についても金属鉱床学研究室は力を注いでおります。

以上で金属鉱床学研究室の説明を終わらせていただ

きます。もし興味をもたれた方がいましたら、秋田大学工学資源学部地球資源学科金属鉱床学研究室のホームページ（URL:<http://dips11.akita-u.ac.jp/OYO-chikyu/mineral/>）をご覧ください。

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2008年12月頃を予定しています。ニュース原稿は10月下旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会ニュース・HP 幹事）

石橋純一郎

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学理学部

地球惑星科学教室

Tel：092-642-2664／Fax：092-642-2684

E-mail：news-hp@geochem.jp

鈴木勝彦

〒237-0061 横須賀市夏島町2-15

海洋研究開発機構（JAMSTEC）

地球内部変動研究センター（IFREE）

Tel：046-867-9617／Fax：046-867-9315

E-mail：news-hp@geochem.jp

2008 年度日本地球化学会第 55 回年会 プログラム

会期：9 月 17 日(水)～19 日(金)

**会場：東京大学教養学部 12,13 号館
(駒場キャンパス)**

セッションテーマ

(1:9月17日、2:9月18日、3:9月19日、**ABCDEFP**:会場名)

(口頭発表は時間を、ポスター発表は番号を示す)

- 01 地球外物質の宇宙化学: 先太陽系史から初期太陽系史
3D 14:15-16:50, **2P01**
- 02 月、火星、太陽系小天体の起源と進化
1E 9:50-12:00
- 03 新しいサンプルリターン時代の分析法・体制とその成果
2A 14:50-17:50, **3A** 9:00-12:00
- 04 (欠番)
- 05 マントル物質の化学とダイナミクス
1D 14:50-17:55, **1P01-03**
- 06 コア-マントル間の物質相互作用
3D 9:00-11:00, **2P02**
- 07 揮発性成分を理解することで地球内部の現象がよりよくわかる
1D 9:25-12:20, 14:20-14:50, **1P04,05**
- 08 火山ガス・火山性流体の挙動、火山活動のモニタリング
2C 15:50-17:40, **2P03-06**
- 09 島弧・海嶺衝突帯の火成作用とテクトニクス
3A 13:00-17:00, **2P07**
- 10 地震発生素過程、断層帯・活断層の化学、地震活動に関連した化学観測
1B 15:05-17:45, **1P06,07**
- 11 古気候・古環境解析の地球化学
3F 9:00-11:50, 13:00-16:55, **2P09-13**
- 12 堆積物、堆積岩の地球化学
2E 14:50-17:50, **3E** 9:00-10:20, **2P14-21**
- 13 同位体で見る地球表層環境変動
3E 10:30-12:00, 13:00-16:25, **2P23-28**
- 14 陸と海の熱水循環システムの地球化学
1A 15:25-16:10, **1P09-14**
- 15 海洋における微量元素・同位体の分布と循環
3D 11:10-11:55, 13:00-14:05, **2P29-31**

- 16 大気水圏とそれらの相互作用、気候変動
2F 14:50-17:55, 3B 9:00-10:15, 2P33-36
- 17 地球大気化学:ガス・エアロゾル
3B 10:25-12:00, 13:00-14:00, 2P37-41
- 18 土壌・陸域生態系の物質循環
1F 14:20-17:25, 1P15-23
- 19 水圏環境地球化学
3C 9:00-12:00, 13:00-16:25, 2P42-49
- 20 有機地球化学
1A 16:15-17:50, 2B 14:50-17:15, 1P24-32
- 21 地球外および海底系熱水系有機物と生命の起源
1A 9:40-11:55, 14:20-15:25, 1P33.34
- 22 バイオミネラリゼーションと石灰化 -遺伝子から地球環境まで
2D 16:05-17:40, 2P50
- 23 ナノジオケミストリー:鉱物表面・界面、地球化学プロセスの基礎科学
1E 14:20-17:40, 1P35
- 24 重元素を用いた安定同位体地球化学
1C 15:35-17:50
- 25 新しい分析技術の開発とその応用
1F 10:20-12:00, 1P36,37
- 26 加速器質量分析が拓く地球環境学・年代学・考古化学
3B 14:10-16:25, 2P51
- 27 都市環境の地球化学と人間－自然相互作用
1B 9:30-12:00, 14:20-14:55, 1P38-42
- 28 放射性廃棄物と地球化学
1C 9:55-12:00, 14:20-15:25, 1P43,44, 2P22
- 29 地球化学教育の現状と今後の課題、地球化学者のキャリアパス
1A 18:00-19:30
- 102 固体地球科学 2P08
- 103 生物圏地球化学 1P45-47
- 104 大気水圏地球化学 1P08, 2P32

日 期 会 場	9月17日(水)						9月18日(木)						9月19日(金)												
	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F	A	B	C	D	E	F							
9:00							総 会						03 サン プルリ ターン	16 気 候 変 動	19 水 圏 環 境	06 コ ア マ ン ト ル	12 堆 積 物 堆 積 岩	11 古 気 候 古 環 境							
9:30		27 都 市 環 境		07 揮 発 性 成 分																17 大 気 化 学					
10:00	21 生 命 の 起 源		28 放 射 性 廃 棄 物		02 小 天 体																				
10:30						25 分 析 技 術		受 賞 講 演																13 表 層 環 境 変 動	
11:00																	15 元 微 素 量								
11:30																									
12:00																									
12:30																									
13:00	ポスター(生協食堂2階)						ポスター(生協食堂2階)						09 島 弧 海 嶺	17 大 気 化 学	19 水 圏 環 境	15 微 量 元 素	13 表 層 環 境 変 動	11 古 気 候 古 環 境							
13:30																									
14:00	ポスター(生協食堂2階)						ポスター(生協食堂2階)						26 加 速 器	01 地 球 外 物 質											
14:30																									
15:00	21 生 命 の 起 源	27 都 市 環 境	28 放 射 性 廃 棄 物	07 揮 発 性 成 分	23 ナ ノ ジ オ ケ ミ ス ト リ ー	18 土 壌 陸 域	03 サン プルリ ターン	20 有 機 地 球 化 学	08 火 山 ガ ス	22 バ イ オ ミ ネ ラ ル	12 堆 積 物 堆 積 岩	16 気 候 変 動													
15:30	14 循 環 熱 水	10 地 震	24 安 定 同 位 体 地 球 化 学	05 マ ン ト ル 物 質																					
16:00	20 有 機 地 球 化 学																								
16:30																									
17:00																									
17:30																									
18:00	29 キ ャ リ ア パ ス						懇親会(生協食堂2階)																		
18:30																									
19:00																									
19:30	集 夜																								
20:00	会 間																								

9月17日 A会場 (13号館 2F1323 講義室)

セッション 21: 地球外および海底系熱水系有機物と生命の起源 (コンビナー: 小林憲正・三田肇・鈴木勝彦)

09:40-10:00 1A01 (21-01 招待)

地球外有機物の分子構造と同位体組成に見られる初期太陽系の記録 (¹ カーネギー研・² 阪大) ○コディジョージ¹・アレクサンダーコーネル¹・フォーゲルマリリン¹・藪田ひかる²

10:00-10:20 1A02 (21-02 招待)

隕石有機物の水質変成: 化学進化に果たす役割 (¹ 九大・² 北大) ○奈良岡浩¹・大場康弘²

10:20-10:35 1A03 (21-03)

有機物・微生物の宇宙曝露と宇宙塵・微生物の捕集(たんぽぽ)の概要 (東薬大) ○山岸明彦

10:35-10:50 1A04 (21-04)

“タンポポ”模擬実験における有機物分析 (¹ 福岡工大・² 横国大・³ 阪大・⁴ 名大・⁵ 九大・⁶ JAXA・⁷ 東薬大) ○三田肇¹・小林憲正²・藪下さやか²・藤崎健太²・中嶋悟³・癸生川陽子³・鈴木彰子³・福島和彦⁴・齋藤香織⁴・奈良岡浩⁵・奥平恭子⁶・橋本博文⁶・山岸明彦⁷

10:50-11:05 1A05 (21-05)

イソパリン固相薄膜への円偏光照射によるキラリティ発現 (¹ NTT・² 横国大・³ 福岡工大・⁴ 分子研・⁵ 名大) ○高橋淳一¹・上野祐子¹・小川智也²・島壮一郎²・金子竹男²・小林憲正²・三田肇³・阿達正浩⁴・保坂将人⁵・加藤政博⁴

11:05-11:20 1A06 (21-06)

星間で生成した複雑有機物から地球上での生命誕生へのシナリオ (¹ 横国大・² NTT・³ JAMSTEC・⁴ 福岡工大・⁵ 放医研・⁶ 東薬大) ○小林憲正¹・谷内俊範¹・栗原広成¹・金子竹男¹・高橋淳一²・高野淑識³・三田肇⁴・吉田聡⁵・山岸明彦⁶

11:20-11:40 1A07 (21-07 招待)

最古の生態系はどのような熱水系で繁栄したか: ウルトラエッチキュープリンケージ仮説 (JAMSTEC) ○高井研

11:40-11:55 1A08 (21-08)

培養実験による H₂ 代謝時の安定同位体分別の解明 - 熱水系における H₂ 代謝量の定量的見積もりに向けて - (¹ 東大・² JAMSTEC) ○川口慎介¹・高井研²・蒲生俊敬¹

9月17日 B会場 (12号館 2F1225 講義室)

セッション 27: 都市環境の地球化学と人間-自然相互作用 (コンビナー: 益田晴恵・丸茂克美)

09:30-09:45 1B01 (27-01)

旧中川河川堆積物の金属汚染とレメディエーション (慶大) ○ホッサンモハマドザキール

09:45-10:00 1B02 (27-02)

多摩川堆積物中の重金属元素の濃度分布および存在形態についての地球化学的研究 (慶大) ○立脇香奈

10:00-10:15 1B03 (27-03)

東京湾における微量重金属の供給源 (静県大) ○坂田昌弘・高木友治・谷幸則

10:15-10:30 1B04 (27-04)

プロジェクト Y 淀川編 一水質班の計画と概要 - (¹ 近大・² 大阪市大・³ 大阪市立自然史博物館) ○中口譲¹・益田晴恵²・中条武司³・山崎恵美子¹・宇根山綾香¹・滝川真矢¹・松本郷平¹・中尾匡伸¹・中川裕美¹

10:30-10:45 1B05 (27-05)

大阪府域における地下水汚染の分布及び経年変化について (大阪府環境農林水産総合研究所) ○西海暢展・栢原博幸・中村智・藤村正・服部幸和

10:55-11:10 1B06 (27-06)

大阪市内の浅層部における塩水化地下水の分布 (¹ 大阪市大・² 信大) ○益田晴恵¹・牧野和哉¹・岡林岳志¹・三田村宗樹¹・中屋真司²

11:10-11:30 1B07 (27-07 招待)

都内の土壌、底質のダイオキシン類、PCB の汚染実態について ((財) 東京都環境科学研究所) ○佐々木裕子

11:30-11:45 1B08 (27-08)

都市表層土壌への重金属(Zn)の濃集と浸透 (¹ 住鉱コンサルタント(株)・² 産総研) ○水落幸広¹・小野雅弘¹・田代寿春¹・丸茂克美²

11:45-12:00 1B09 (27-09)

都市域の汚染土壌の鉛同位体組成 (産総研) ○丸茂克美

9月17日 C会場 (12号館 2F1222 講義室)

セッション 28: 放射性廃棄物と地球化学 (コンピーナー: 日高洋・吉田英一・山本鋼志)

09:55-10:15 1C01 (28-01 招待)

地層処分システム安全研究における地球化学の役割
(原子力安全研究協会) ○朽山修

10:15-10:30 1C02 (28-02)

地層処分における地球化学的アナログプロセス -地下地質環境での Fe-oxyhydroxides の長期的挙動について-
(名大) ○吉田英一・山本鋼志

10:30-10:45 1C03 (28-03)

ナチュラアナログとしてのオクロ天然原子炉の同位体研究 (広大) ○日高洋

10:45-11:00 1C04 (28-04)

天然原子炉内に存在する金属微粒子中の Zr, Mo, Ru, Pb 同位体特性 (広大) ○菊池麻希子・日高洋

11:00-11:15 1C05 (28-05)

千葉県養老地域での土壌への有機ヨウ素の蓄積 (¹ 広大・²SPRING-8) ○嶋本洋子¹・寺田靖子²・高橋嘉夫¹

11:15-11:30 1C06 (28-06)

地球化学データに基づく地下水流動状態の長期的変遷に関する検討 (原研) ○水野崇・岩月輝希・濱克宏・三枝博光

11:30-11:45 1C07 (28-07)

微量元素の有機錯体形成に関わる圧力依存性について (¹ 原研²コベルコ科研³神戸製鋼) ○岩月輝希¹・濱克宏¹・今北毅²・栗本宣孝²・吉田治生²・加藤修³

11:45-12:00 1C08 (28-08)

熱水変質作用に伴う燐灰石, 楔石, ジルコン内における元素の再分配挙動 (¹産総研²広大³仏国科学研究センター) ○堀江憲路¹・日高洋²・François Gauthier-Lafaye³

9月17日 D会場 (12号館 1F1213 講義室)

セッション 07: 揮発性成分を理解することで地球内部の現象がよりよくわかる (コンピーナー: 松本拓也・角野浩史・川本竜彦)

09:25-09:40 1D01 (07-01 招待)

マントル捕獲岩 CPX の Li-Sr 同位体不均質 (¹JAMSTEC・²京大) ○西尾嘉朗¹・山本順司²

09:40-10:00 1D02 (07-02 招待)

プレート沈み込みによるマントルへのホウ素輸送: 含ダイヤモンド電気石のホウ素同位体組成とその意義 (岡大) ○太田努・小林桂・中村栄三

10:00-10:15 1D03 (07-03)

気体が関与した重金属の移動と斑岩型鉱床の生成 (筑波大) ○林謙一郎

10:15-10:30 1D04 (07-04)

沈み込み帯でのマグマ作りに二酸化炭素は重要か? (京大) ○川本竜彦

10:30-10:45 1D05 (07-05 招待)

コマチャイト生成、噴火における揮発性成分の役割とマントル脱ガス史 (JAMSTEC) ○清水健二

10:45-11:00 1D06 (07-06)

Can noble gases be recycled back to the deep mantle? (岡大) ○松本拓也

11:00-11:15 1D07 (07-07)

非火山性温泉水分析を用いたスラブ脱水過程における化学・同位体分別の考察 (東大) ○楠田千穂・岩森光

11:15-11:30 1D08 (07-08 招待)

初生的な島弧玄武岩マグマは水に富む—Caに富む斜長石斑晶の水素含有量からの制約— (¹京大・²東大) ○浜田盛久¹・川本竜彦¹・藤井敏嗣²

11:30-11:45 1D09 (07-09 招待)

スラブ流体の分布と沈み込む海洋プレートの構造 (¹産総研²東大³JAMSTEC⁴東北大) ○中村仁美¹・岩森光²・木村純一³・中島淳一⁴

11:45-12:00 1D10 (07-10 招待)

H₂O 高压氷の 126 GPa までの体積変化と水素結合対称化転移 -放射光 X 線回折測定と密度汎関数計算を用いて- (¹東工大²理研³JAMSTEC⁴JASRI) ○杉村恵実子¹・飯高敏晃²・廣瀬敬¹・河村雄行¹・佐多永吉³・大石泰生⁴

12:00-12:20 1D11 (07-11 招待)

マントルに大量の水は存在するのか? (岡大) ○芳野極

9月17日 E会場 (12号館 1F1214 講義室)

セッション 02: 月、火星、太陽系小天体の起源と進化 (コンピナー: 三浦弥生・橋爪光・山口亮)

09:50-10:05 1E01 (02-01)

Tafassasset 隕石の主要及び微量元素組成 (¹ 首都大・² 極地研) ○田村麻衣¹・篠塚一典¹・海老原充¹・山口亮²

10:05-10:20 1E02 (02-02 招待)

揮発性元素に富む小惑星起源の安山岩 (極地研) ○荒井朋子

10:20-10:35 1E03 (02-03)

ユークライト隕石母天体地殻の部分溶融について (極地研) ○山口亮

10:35-10:55 1E04 (02-04 招待)

初期金星大気の流体力学的散逸 (¹ 東工大・² 東大) ○佐々木貴教¹・阿部豊²

10:55-11:15 1E05 (02-05 招待)

かぐや (SELENE) 搭載 LISM (Lunar Imager/Spectrometer) による月面鉱物探査 (環境研) ○松永恒雄

11:15-11:30 1E06 (02-06)

月探査衛星「かぐや」搭載ガンマ線分光計で探る月表面元素組成 (¹ 早大・² 埼玉県大・³ 日医大) ○唐牛譲¹・柴村英道²・小林正規³・奥平修¹・山下直之¹・小林進吾¹・晴山慎¹・岩淵和也¹・根本慎平¹・早津佳那子¹・武田侑子¹・塚田耕一¹・長岡央¹・長谷部信行¹

11:30-11:45 1E07 (02-07)

月隕石 Dhofar 1428 の元素組成 (¹ 首都大・² 極地研) ○日高義浩¹・海老原充¹・山口亮²

11:45-12:00 1E08 (02-08)

Yamato 000097 レルゾライト質シャーゴットタイトの形成年代 (極地研) ○三澤啓司

9月17日 F会場 (12号館 1F1212 講義室)

セッション 25: 新しい分析技術の開発とその応用 (コンピナー: 横山哲也・平田岳史・岩森光)

10:20-10:35 1F01 (25-01)

石英中の流体包有物の Li-Sr 同位体比を測定する試み (¹ 筑波大・² JAMSTEC) ○増川恭子¹・西尾嘉朗²

10:35-10:50 1F02 (25-02)

フェムト秒レーザーアブレーション ICP 質量分析計による元素分析 (東工大) ○平田岳史・昆慶明・横山隆臣・横山哲也

10:50-11:05 1F03 (25-03)

高温・高圧下におけるオスミウムと金属シリケート間分配係数の決定 (¹ 東工大・² コロンビア大・³ メリーランド大) ○横山哲也¹・Walker David²・Walker Richard J.³

11:05-11:25 1F04 (25-04 招待)

パルス中性子線源を用いた新しい地球科学の創成 (東大) ○鍵裕之

11:25-11:45 1F05 (25-05 招待)

地球化学・環境化学研究のための XAFS の今後: より多くの元素へ、より高い空間分解能で、EXAFS まで (広大) ○高橋嘉夫

11:45-12:00 1F06 (25-06)

地球化学データの多変量解析とその周辺 (東大) ○岩森光

9月17日 A会場 (13号館 2F1323 講義室)

セッション 21: 地球外および海底系熱水系有機物と生命の起源 (コンピーナー: 小林憲正・三田肇・鈴木勝彦)

14:20-14:35 1A09 (21-09)

熱水マイクロフローリアクターを用いるオリゴペプチドの非生物的生合成反応の速度解析 (大阪府大) ○川村邦男・竹家均・嶋橋政徳・秋吉藍・西輝之・崎山智文

14:35-14:50 1A10 (21-10)

高温高圧条件下での前生物的生合成の生成: 初期地球のダイナミクス的重要性 (東北大) ○掛川武

14:50-15:05 1A11 (21-11)

隕石構成鉱物、水および窒素の衝突反応による有機分子の生成 (¹ 東北大・² 物材機構) ○古川善博 ¹・関根利守 ²・大庭雅寛 ¹・掛川武 ¹・中沢弘基 ²

15:05-15:25 1A12 (21-12 招待)

深海熱水噴出孔の物理化学(JAMSTEC) ○出口茂

セッション 14: 陸と海の熱水循環システムの地球化学 (コンピーナー: 石橋純一郎・千葉仁)

15:25-15:40 1A13 (14-01)

鳩間海丘における海底熱水の化学組成 (¹ 琉球大・² 九大・³ 北大・⁴ 東大・⁵ 岡大・⁶ JAMSTEC) ○土岐知弘 ¹・岩田大吾 ¹・大森保 ¹・石橋純一郎 ²・角皆潤 ³・佐野有司 ⁴・川口慎介 ⁴・蒲生俊敏 ⁴・山中寿朗 ⁵・高井研 ⁶

15:40-15:55 1A14 (14-02)

水曜海山熱水系における微量金属元素の地球化学的研究 (¹ 東大・² 九大・³ 静大) ○寺西源太 ¹・小畑元 ¹・蒲生俊敏 ¹・石橋純一郎 ²・木村浩之 ³

15:55-16:10 1A15 (14-03)

鹿児島湾若草カルデラにおける噴気気泡挙動の観測 (¹ (財)電中研・² (株)セレス) ○下島公紀 ¹・宮川公雄 ¹・前田義明 ²

セッション 20: 有機地球化学 (コンピーナー: 奈良岡浩・高野淑識)

16:15-16:30 1A16 (20-01)

膜脂質の炭素・水素同位体組成から見たメタンハイドレート濃集域堆積物深部の古細菌活動 (九大) ○金子雅紀・奈良岡浩

16:30-16:45 1A17 (20-02)

日本海の氷期-間氷期堆積物に含まれる古細菌膜脂質由来のピフィタンの存在度 (九大) ○新開宏・奈良岡浩

16:45-17:00 1A18 (20-03)

深海堆積物高等植物ワックスの炭素同位体比時系列変化が示唆する堆積時差 (¹ 北大・² モラツワ大) ○鈴木徳行 ¹・ナリンラトナヤケ ²

17:00-17:15 1A19 (20-04)

南中国三峡地域の原生代／顕生累代境界層から抽出したバイオマーカー (東工大) ○山田健太郎・上野雄一郎・山田桂大・吉田尚弘・丸山茂徳

17:15-17:30 1A20 (20-05)

中期白亜紀海洋無酸素事変 1a および 1b 層準のバイオマーカー分析によるアーキアおよびバクテリア生産の還元 (北大) ○岡野和貴・沢田健・高嶋礼詩・西弘嗣

17:30-17:50 1A21 (20-06 招待)

古細菌由来のエーテル脂質による地球環境解析: 暁新世/始新世境界の地球温暖化事変と海底熱水孔における微生物活動の解析への貢献 (¹ 東北大・² 北大・³ 産総研) ○大庭雅寛 ¹・海保邦夫 ¹・掛川武 ¹・山本正伸 ²・坂田将 ³・古川善博 ¹・佐藤誠悟 ¹

9月17日 B会場 (12号館 2F1225 講義室)

セッション 27: 都市環境の地球化学と人間-自然相互作用 (コンピーナー: 益田晴恵・丸茂克美)

14:20-14:40 1B10 (27-10 招待)

青森地域における土壌・堆積物、温泉水、及び河川水中の重金属元素 (産総研) ○丸茂克美・山村充・小野木有佳

14:40-14:55 1B11 (27-11)

バングラデシュの完新世堆積物中の季節的地下水位変動に伴うヒ素の変動がヒ素汚染地下水に与える影響 (¹ 大阪市大・² 岡大・³ 信大・⁴ ダッカ大) ○セディキアシュラフアリ ¹・益田晴恵 ¹・三田村宗樹 ¹・篠田圭司 ¹・山中寿朗 ²・中屋眞司 ³・アーメッドカジマティン ⁴

セッション 10: 地震発生素過程、断層帯・活断層の化学、地震活動に関連した化学観測 (コンピーナー: 田中秀実・角森史昭)

15:05-15:20 1B12 (10-01)

新生「地震化学」に望むこと (産総研) ○小泉尚嗣

15:20-15:35 1B13 (10-02)

平成 20 年(2008)岩手・宮城内陸地震後の震源域周辺における ³He/⁴He 比の変化について (阪大) ○堀口桂香・松田准一

15:35-15:50 1B14 (10-03)

1978 年伊豆大島近海地震での地下水ラドン濃度の減少 (¹ 東大・² 台湾国立成功大) ○角森史昭 ¹・郭明錦 ²

15:50-16:05 1B15 (10-04)

兵庫県南部地震前のラドン散逸と地殻歪変化の呼応について (¹ 神戸薬大・² エディンバラ大・³ 東北大・⁴ 放医研) ○安岡由美 ¹・川田祐介 ²・長濱裕幸 ³・大森康孝 ³・石川徹夫 ⁴・床次眞司 ⁴・志野木正樹 ¹

16:05-16:20 1B16 (10-05)

削剥された地質断層からみる、断層深部での破壊開始と流体移動 (¹ 産総研・² 東京学芸大・³ 岐阜大) ○重松紀生 ¹・藤本光一郎 ²・大谷具幸 ³

16:30-16:45 1B17 (10-06)

台湾車籠埔断層注水実験 — 化学分析から水の到着を監視する — (¹ 東大・² 国立中央大) ○村上雅紀 ¹・田中秀実 ¹・馬國鳳 ²

16:45-17:00 1B18 (10-07)

鉱物の溶解による断層面の潤滑 (東大) ○田中秀実

17:00-17:15 1B19 (10-08)

台湾チェルンブ断層掘削計画 Hole B 掘削コア試料中の黒色断層ガウジ帯の ESR 分析 (¹ 山口大・² 長崎県庁・³ (株)エステム・⁴ JAMSTEC・⁵ 国立台湾大) ○福地龍郎 ¹・田中大地 ²・松原拓穂 ³・徐垣 ⁴・宋聖榮 ⁵

17:15-17:30 1B20 (10-09)

地震発生サイクルにおける岩石破壊励起型化学過程の寄与-岩石粉碎実験からのアプローチ- (東大) ○齊藤友比古・田中秀実

17:30-17:45 1B21 (10-10)

断層充填鉱物脈の微細化学組成から還元された地震時の還元流体: 付加体中の大規模衝上断層を例として (東大) ○山口飛鳥・木村学

9月17日 C会場 (12号館 2F1222 講義室)

セッション 28: 放射性廃棄物と地球化学 (コンピーナー: 日高洋・吉田英一・山本鋼志)

14:20-14:35 1C09 (28-09)

マンガン酸化物への 4 価プルトニウムの吸着と酸化 (原研) ○田中万也・大貫敏彦

14:35-14:50 1C10 (28-10)

地下深部花崗岩の割れ目(帯)に沿う変質帯の物質移動・遅延機能 (¹ 名古屋市科学館・² 名大) ○西本昌司 ¹・吉田英一 ²

14:50-15:05 1C11 (28-11)

Mn 酸化微生物と Ce(III)との相互作用 (原研) ○大貫敏彦・香西直文・鈴木義則・坂本文徳

15:05-15:25 1C12 (28-12 招待)

バクテリアおよび植物によるガラスの変質 (仏国科学研究センター) ○スティルピーター

セッション 24: 重元素を用いた安定同位体地球化学 (コンピーナー: 谷水雅治・平田岳史)

15:35-15:50 1C13 (24-01)

海水からの Mg 迅速分離法の確立とその同位体的均質性の検証 (¹JAMSTEC・²東大) ○谷水雅治 ¹・豊福高志 ¹・小畑元 ²

15:50-16:05 1C14 (24-02)

炭酸塩鉱物におけるマグネシウム・カルシウム・ストロンチウムの同位体分別 (東工大) ○大野剛・若林貴弘・笠倉祥文・平田岳史

16:05-16:20 1C15 (24-03)

海水、陸水中モリブデン同位体組成 (京大) ○中川裕介

16:20-16:40 1C16 (24-04 招待)

量子化学計算による各種鉄錯体間の同位体分配係数算出に向けたアプローチ (北大) ○武次ゆり子

16:50-17:05 1C17 (24-05)

銅同位体比局所分析法の開発と地球化学試料への応用 (¹東大・²東工大) ○池端慶 ¹・野津憲治 ²・平田岳史

17:05-17:20 1C18 (24-06)

ダブルスパイク法を用いた表面電離型質量分析計による Sr 安定同位体分析 (¹名大・²北大) ○加藤大輔 ¹・若木重行 ²・田中剛 ¹

17:20-17:35 1C19 (24-07)

多重検出器誘導結合プラズマ質量分析計を用いたユーロピウムの安定同位体分析 (¹名大・²北大・³JAMSTEC) ○田中浩史 ¹・若木重行 ²・谷水雅治 ³・田中剛 ¹

17:35-17:50 1C20 (24-08)

マグマの分化作用に伴う Eu および Sr の高温同位体分別 (¹北大・²名大・³JAMSTEC) ○若木重行 ¹・田中浩史 ²・加藤大輔 ²・谷水雅治 ³・田中剛 ²

9月17日 D会場 (12号館 1F1213 講義室)

セッション 07: 揮発性成分を理解することで地球内部の現象がよりよくわかる (コンピーナー: 松本拓也・角野浩史・川本竜彦)

14:20-14:35 1D12 (07-12 招待)

マグマと水の第2臨界終端点が意味するもの (東大) ○三部賢治

14:35-14:50 1D13 (07-13 招待)

アセノスフェアの正体: 古い太平洋プレート上に噴出したアルカリ玄武岩からの考察 (東工大) ○高橋栄一

セッション 05: マントル物質の化学とダイナミクス (コンピーナー: 下田玄・小木曾哲・清水健二・鈴木勝彦)

14:50-15:05 1D14 (05-01)

中央海嶺玄武岩 (MORB) および関連するはんれい岩やかんらん岩のヘリウム同位体 (¹JAMSTEC・²金沢大・³産総研・⁴東大・⁵新潟大) ○熊谷英憲 ¹・阿部なつ江 ¹・佐藤佳子 ¹・森下知晃 ²・下司信夫 ³・中村謙太郎 ⁴・根尾夏紀 ⁵

15:05-15:20 1D15 (05-02)

フランス中央山塊マントル捕獲岩の Sr-Nd 同位体・岩石学的特徴 (京大) ○芳川雅子・川本竜彦・山本順司

15:20-15:35 1D16 (05-03)

伊豆島弧の脱水流体中の Be 濃度・同位体比の推定 (¹東大・²環境防災総合政策研究機構・³千葉大) ○後反克典 ¹・中井俊一 ¹・新堀賢志 ²・津久井雅志 ³・藤井敏嗣 ¹・中田節也 ¹・松崎浩之 ¹

15:35-15:50 1D17 (05-04)

結晶分別作用が玄武岩マグマに含まれる硫黄の溶解度に及ぼす影響: HIMU と FOZO の起源物質生成に果たす役割 (¹産総研・²京大) ○下田玄 ¹・小木曾哲 ²

15:50-16:05 1D18 (05-05)

パイロキシナイトに記録されたオスミウム同位体比変動と地殻-マントル物質循環 (¹JAMSTEC・²英国ダラム大) ○石川晃 ¹・Pearson D. Graham ²・Dale Christopher W. ²

16:05-16:20 1D19 (05-06)

ハワイ島フアラライ火山盾状期溶岩の同位体地球化学 (¹京大・²熊本大・³サンディエゴ州立大) ○山崎誠子 ¹・可児智美 ²・Hanan Barry B. ³・田上高広 ¹

16:30-16:45 1D20 (05-07)

地球試料における W 同位体比測定: マントル進化への制約 (¹東大・²JAMSTEC) ○賞雅朝子 ¹・中井俊一 ¹・Sahoo Yu Vin ¹・羽生毅 ²・川畑博 ²

16:45-17:00 1D21 (05-08)

ハワイ火山の初期ステージに見られる多様なマグマ源 (¹JAMSTEC・²島根大) ○羽生毅 ¹・木村純一 ¹・交久瀬磨衣子 ²

17:00-17:15 1D22 (05-09)

同位体比から地球内部の状態を読み解くには? (東大) ○兼岡一郎

17:15-17:35 1D23 (05-10 招待)

南太平洋マントルプリュームの地震学的イメージ (¹JAMSTEC・²東大・³Univ. Montpellier II・⁴CEA) ○大林政行 ¹・末次大輔 ¹・田中聡 ¹・一瀬建日 ²・吉光淳子 ¹・塩原肇 ²・杉岡裕子 ¹・金沢敏彦 ²・深尾良夫 ¹・Barroul Guilhem ³・Reymond Dominique ⁴

17:35-17:55 1D24 (05-11 招待)

高圧地球化学からみた地球の進化とダイナミクス (東北大) ○大谷栄治

9月17日 E会場 (12号館 1F1214 講義室)

セッション 23: ナノジオケミストリー: 鉱物表面・界面、地球化学プロセスの基礎科学 (コンピーナー: 宇都宮聡・太田充恒・鍵裕之)

14:20-14:35 [1E09 \(23-01\)](#)

下部マントルまで安定な含水鉱物における水素結合の圧力応答 - δ -AlOOH を例に- (東大) ○牛嶋大地・佐野亜沙美・鍵裕之

14:35-14:50 [1E10 \(23-02\)](#)

重炭酸カリウムの圧力誘起構造相転移における同位体効果の探索 (¹東大・²北大) ○¹飯塚理子・¹小松一生・¹鍵裕之・²永井隆哉・¹佐野亜沙美

14:50-15:05 [1E11 \(23-03\)](#)

硫酸バリウムと水溶液間における希土類元素分配反応の実験的研究 (名大) ○奥村友幸・川邊岩夫

15:05-15:20 [1E12 \(23-04\)](#)

鉄水酸化物・マンガン酸化物中の希土類元素の局所構造の系統的変化と固液間分配係数パターンとの関係 (¹産総研・²東大・³高エネ研・⁴横国大・⁵名大) ○太田充恒・¹鍵裕之・²野村昌治・³津野宏・⁴川邊岩夫・⁵

15:20-15:35 [1E13 \(23-05\)](#)

ランタニド・リン酸塩 (LnPO₄) の「酸化物からの標準生成エンタルピー」とモナズ石／ゼノタイム系列の相互関係: Jørgensen 理論と四組効果の重要性 (名大) ○川邊岩夫

15:35-15:50 [1E14 \(23-06\)](#)

花崗岩質岩石の生成機構の指標としてのモナズ石の希土類元素パターン (筑波大) ○星野美保子・木股三善・西田憲正・清水雅浩

16:00-16:15 [1E15 \(23-07\)](#)

鉱物中の非晶質ナノ領域: その形成、存在状態、その場でおこる現象と地球化学的プロセスへの影響 (九大) ○宇都宮聡

16:15-16:35 [1E16 \(23-08 招待\)](#)

地球内部の界面化学 (東大) ○平賀岳彦

16:35-16:50 [1E17 \(23-09\)](#)

生成温度の異なる針鉄鉱の結晶形態と表面化学 (国際農林水産業研究センター) ○越後拓也・八田珠郎・根本清子

16:50-17:05 [1E18 \(23-10\)](#)

AFM を用いたカルサイトの絶対的ステップ速度の測定 (¹東大・²島津製作所) ○吉野徹・¹鍵裕之・¹粉川良平・²

17:05-17:20 [1E19 \(23-11\)](#)

金属硫化物への金(III)錯イオンの吸着/還元挙動 (九大) ○赤松美里・岡上吉広・横山拓史

17:20-17:40 [1E20 \(23-12 招待\)](#)

鉱物-水境界の鉱物と溶液の構造と化学 (東大) ○村上隆

9月17日 F会場 (12号館 1F1212 講義室)

セッション 18: 土壌・陸域生態系の物質循環 (コンピーナー: 杉本敦子・赤木右・八木一行・高橋善幸・楊宗興)

14:20-14:40 [1F07 \(18-01 招待\)](#)

原位置における硝酸の酸素安定同位体比が森林土壌中での総硝化量がいかに大きいかを物語る (¹東大・²農環研・³鹿児島大・⁴京大) ○大手信人・¹尾坂兼一・²館野隆之輔・³徳地直子・⁴

14:40-15:00 [1F08 \(18-02 招待\)](#)

土地利用変化が流域レベルにおける温室効果ガス放出量に及ぼす影響 (¹農工大・²北大・³中国科学院・⁴中国西南大) ○木村園子・ドロテア・¹当真要・²山田浩之・²木志堅・³波多野隆介・²

15:00-15:15 [1F09 \(18-03\)](#)

現場実測値データベースを元にした世界の水田からのメタン発生量の見積もり (¹農環研・²中国科学院・³農環研・⁴JAMSTEC) ○八木一行・¹顔曉元・²秋山博子・³秋元肇・⁴

15:15-15:30 [1F10 \(18-04\)](#)

土壌有機物分解起源 CO₂ の炭素安定同位体比の時間変動性 (¹環境研・²環境研) ○高橋善幸・¹梁乃申・²

15:30-15:45 [1F11 \(18-05\)](#)

北海道幌延地域の深部地下水中腐植物質の特徴 (¹北大・²原研) ○長尾誠也・¹岩月輝希・²吉川英樹・²

15:45-16:00 [1F12 \(18-06\)](#)

放射性炭素同位体を用いた森林土壌有機炭素の滞留時間推定に向けた土壌有機炭素の比重分画の検討 (環境研) ○近藤美由紀・内田昌男・和穎朗太

16:10-16:25 [1F13 \(18-07\)](#)

生物における同位体比の新しいミキシング理論 定濃度ミキシング (九大) ○赤木右

16:25-16:40 [1F14 \(18-08\)](#)

四種硫黄同位体比を用いた成層湖・深見池における季節変動解析 (東工大) ○中川麻悠子・上野雄一郎・吉田尚弘

16:40-16:55 [1F15 \(18-09\)](#)

三酸素同位体組成を指標に用いた貧栄養湖沼中の窒素循環解析 (北大) ○代田里子

16:55-17:10 [1F16 \(18-10\)](#)

森林生態系における沈着窒素の利用効率 (¹北大・²富山大院) ○角皆潤・¹小松大祐・¹代田里子・¹中川書子・¹張勁・²

17:10-17:25 [1F17 \(18-11\)](#)

高標高山岳域における大気沈着窒素、植物、地衣類、サルの低い窒素安定同位体比 (¹農工大・²首都大・³信大) ○楊宗興・¹中下留美子・²北澤陽子・¹深山景亮・¹宮本侑・¹泉山茂之・³

9月17日 A会場 (13号館 2F1323 講義室)

セッション 29: 地球化学教育の現状と今後の課題、地球化学者のキャリアパス (コンピーナー: 瀧上豊・橘省吾・津野宏)

後援 日本地球惑星科学連合

18:00-18:09

はじめに: 地球惑星科学と多様なキャリアパス (東大) ○橘省吾

18:09-18:26 1A22 (29-1 招待)

“研究道”のエッセンス: アカデミック・キャリアパスからのつづやき (阪大) ○藪田ひかる

18:26-18:43 1A23 (29-2 招待)

地球化学から材料工学へのキャリアパス (都産技研) ○清水綾

18:43-19:00 1A24 (29-3 招待)

科学コミュニケーションという仕事 (高エネ研) ○山中敦子

19:00-19:30 パネルディスカッション

「キャリアパスと地球化学教育を考える」

9月18日 A会場 (13号館 2F1323 講義室)

09:00-10:30 総会

9月18日 A会場 (13号館 2F1323 講義室)

受賞講演

10:30-10:50 2J01 (奨励賞)

大気および氷床コア試料の精密分析に基づく揮発性有機化合物の地球化学的研究 (環境研) ○斉藤拓也

10:50-11:10 2J02 (奨励賞)

重元素の高精度安定同位体分析とその同位体分別機構に関する基礎的研究 (JAMSTEC) ○谷水雅治

11:10-11:30 2J03 (奨励賞)

沈み込む海洋プレート上の新タイプ火山活動の発見とメカニズムの解明 (金沢大) ○平野直人

11:30-12:00 2J04 (学会賞)

放射化学的手法による太陽系形成初期における物質進化の研究 (首都大) ○海老原充

12:00-12:30 2J05 (柴田賞)

現世堆積有機物の地球化学的研究 (都立大名誉教授) ○石渡良志

9月18日 A会場 (13号館 2F1323 講義室)

セッション 03:新しいサンプルリターン時代の分析法・体制とその成果 (コンピーナー:土山明・海老原充・富岡尚敬)

14:50-15:10 2A01 (03-01 招待)

短周期彗星81P/ビルト第2彗星から回収されたコンドリュール (¹九大・²茨大・³阪大・⁴ウィスコンシン大・⁵NASA・⁶SPRING-8・⁷産総研) ○中村智樹¹・野口高明²・土山明³・牛久保孝行⁴・木多紀子⁴・パレージョン⁴・ゾレンスキー・マイケル⁵・嘉数勇基¹・坂本佳奈子¹・増尾悦子³・上杉健太郎⁶・中野司⁷

15:10-15:25 2A02 (03-02)

ヴィルト2彗星粒子中のケイ酸塩鉱物及びSi-Oガラス (¹神戸大・²岡大・³日本電子) 留岡和重¹・富岡尚敬²・大西市朗³

15:25-15:40 2A03 (03-03)

彗星塵衝突トラックの3次元構造 (¹阪大・²九大・³産総研・⁴JASRI) ○飯田洋祐¹・土山明¹・中村智樹²・坂本佳奈子²・門野敏彦¹・中野司³・上杉健太郎⁴

15:40-15:55 2A04 (03-04)

エアロジェルを用いたサンプルリターンミッションのための超高速捕獲模擬実験 (¹JAXA・²茨大・³千葉大・⁴九大・⁵東薬大) ○奥平恭子¹・野口高明²・長谷川直¹・矢野創¹・田端誠³・中村智樹⁴・山岸明彦⁵

15:55-16:15 2A05 (03-05 招待)

スターダスト探査機により Wild 2 彗星から地球に持ち帰られた試料 (NASA) ○サンドフォードスコット

16:15-16:30 2A06 (03-06)

軟X線吸収分光法による地球外微小サンプルの炭素化合物分析への適用と予想される成果・利点 (¹阪大・²カーネギー研究所・³バークレー国立研究所・⁴NASA) ○藪田ひかる¹・コーディジョージ²・アレクサンダーコーネル²・キルコインデビッド³・荒木暢³・サンドフォードスコット⁴

16:30-16:45 2A07 (03-07)

顕微赤外・ラマン分光法で探る地球外微小有機物 (¹阪大・²JAXA・³福岡工大・⁴横国大・⁵東薬大) ○中嶋 悟¹・癸生川陽子¹・鈴木彰子¹・奥平恭子²・三田 肇³・小林憲正⁴・山岸明彦⁵

16:55-17:10 2A08 (03-08)

A first look at oxygen in a Genesis sample (岡大) ○国広卓也

17:10-17:30 2A09 (03-09 招待)

三朝における極微量地球惑星物質総合分析システム (岡大) ○中村栄三

17:30-17:50 2A10 (03-10 招待)

微小地球外物質の希ガス分析 (¹東大・²九大) ○長尾敬介¹・馬上謙一¹・岡崎隆司²・中村智樹²

9月18日 B会場 (12号館 2F1225 講義室)

セッション 20:有機地球化学 (コンピーナー:奈良岡浩・高野淑識)

14:50-15:05 2B01 (20-07)

光合成アンテナ蛋白質(phycobiliproteins)の安定同位体比 (JAMSTEC) ○小川奈々子・カ石嘉人・柏山祐一郎・富谷朗子・北里洋・大河内直彦

15:05-15:20 2B02 (20-08)

クロロフィルのアイソトポマー:理論と実践 (JAMSTEC) ○大河内直彦・カ石嘉人・小川奈々子・柏山祐一郎・北里洋

15:20-15:35 2B03 (20-09)

クロロ色素とその誘導体(ポルフィリン)の安定同位体分析に基づく光合成システムの多元的解析 (JAMSTEC) ○柏山祐一郎

15:35-15:50 2B04 (20-10)

アミノ酸の窒素同位体比を用いた食物連鎖網解析 (JAMSTEC) ○カ石嘉人

15:50-16:05 2B05 (20-11)

アミノ酸の窒素同位体比分析を利用した北海道縄文時代人の食性解析 (東大) ○内藤裕一

16:15-16:30 2B06 (20-12)

分子レベルから立体異性体分子レベル窒素同位体比への展開:原核生物のペプチドグリカンに含まれるD-, L-アラニン (JAMSTEC) ○高野淑識・カ石嘉人・小川奈々子・北里洋・大河内直彦

16:30-16:45 2B07 (20-13)

バイカル湖深層水における河川起源溶存有機物の保存 (¹兵庫県大・²オールドドミニオン大・³陸水研・⁴バイカル博物館・⁵佐賀大・⁶滋賀県大・⁷愛媛大・⁸京大) ○杉山裕子¹・Hatcher Patrick²・熊谷 哲¹・Valentin Drucker³・Vladimir Fialkov⁴・片野俊也⁵・三田村緒佐武⁶・中野伸一⁷・杉山雅人⁸

16:45-17:00 2B08 (20-14)

堆積物のキノン分析による細菌の古生産性および群集組成の復元:予察的研究 (北大) ○沢田健

17:00-17:15 2B09 (20-15)

海洋における微生物ループと物質循環 (JAMSTEC) ○山本啓之

9月18日 C会場 (12号館 2F1222 講義室)

セッション08: 火山ガス・火山性流体の挙動、火山活動のモニタリング (コンビーナー: 大場武・北逸郎・森俊哉・野上健治)

15:50-16:10 2C01 (08-01 招待)

エトナ火山の火山ガス供給過程 (¹産総研・²パレルモ大・³INGV) ○篠原宏志 ¹・アイウツパアレキサンドロ ²・ギウディチェゲイタノ ³・グリエリセルジオ ³・リウツォマルコ ³

16:10-16:30 2C02 (08-02 招待)

阿蘇火山中岳火口湯だまりの水質から探るマグマ性ガスの特徴 (¹信大・²京大) ○齋藤武士 ¹・大沢信二 ²

16:30-16:45 2C03 (08-03)

1995年九重硫黄山噴火に伴って出現したマグマ水 (¹九大・京大) ○北逸郎 ¹・糸井龍一 ¹・上田晃 ²

16:45-17:00 2C04 (08-04)

桜島、南岳火口及び昭和火口の火山噴煙中二酸化硫黄イメージング (東大) ○風早竜之介・森俊哉

17:10-17:25 2C05 (08-05)

¹²⁹I とハロゲンから推定する草津白根山熱水系におけるヨウ素の起源 (¹学習院大・²東工大) ○柏木祐 ¹・村松康行 ¹・大場武 ²

17:25-17:40 2C06 (08-06)

台湾大屯山の噴気に観察された He 濃度および ³He/⁴He 比の異常 (¹東工大・²台湾国立大・³産総研) ○大場武 ¹・澤穀 ¹・平徳泰 ¹・楊燦堯 ²・李曉芬 ²・藍徳芳 ²・大和田道子 ³・森川徳敏 ³・風早康平 ³

9月18日 D会場 (12号館 1F1213 講義室)

セッション 22: バイオミネラリゼーションと石灰化 - 遺伝子から地球環境まで (コンビーナー: 佐野有司・川幡穂高)

16:05-16:20 2D01 (22-01)

浮遊性有孔虫殻内の微小領域元素分布と石灰化作用 (東大) ○白井厚太郎・高畑直人・佐野有司

16:20-16:35 2D02 (22-02)

石灰化による酸性化効果によるサンゴの石灰化の負のフィードバック効果 (東大) ○川幡穂高

16:35-16:50 2D03 (22-03)

耳石の Sr 同位体比によるアユの回遊履歴解明の試み (¹東大・²JAMSTEC) ○天川裕史 ¹・鈴木隆史 ¹・高橋俊郎 ²・巽好幸 ²・大竹二雄 ¹

16:50-17:05 2D04 (22-04)

養殖クロチウガイの貝殻を用いた酸素同位体比による成長過程復元 (慶大) ○田子裕子

17:05-17:20 2D05 (22-05)

温度制御下で飼育したサンゴクローンサンプル (Porites australiensis) の微量元素変動 (¹東大・²琉球大・³産総研) ○井上麻夕里 ¹・古賀奏子 ²・酒井一彦 ²・鈴木淳 ³・川幡穂高 ¹

17:20-17:40 2D06 (22-06)

サンゴ骨格の酸素同位体比温度計の安定性に関する飼育実験による検討 (¹産総研・²琉球大・³東大) ○鈴木淳 ¹・古賀奏子 ²・酒井一彦 ²・井上麻夕里 ³・川幡穂高 ³

9月18日 E会場 (12号館 1F1214 講義室)

セッション 12: 堆積物、堆積岩の地球化学 (コンビーナー: 山本鋼志・杉谷健一郎・三村耕一・加藤泰浩・丸岡照幸)

14:50-15:10 2E01 (12-01 招待)

ピルバラクラトン・マウントゴールズワージー地域に産する
太古代堆積岩の岩石学・地球化学・古生物学 (名大) ○
杉谷健一郎

15:10-15:25 2E02 (12-02)

太古代 (>3.0Ga) の微生物化石を含む黒色チャートの成
因—希土類元素からの考察 (名大) ○菅原春菜・杉谷健
一郎・山本鋼志・三村耕一

15:25-15:40 2E03 (12-03)

北上地方、ペルム紀登米層に産する燐酸塩岩の成因
(信大) ○森清寿郎

15:40-15:55 2E04 (12-04)

ペルム紀／トリアス紀境界における海水 Os 同位体組成
の急激な変動 (¹ 東大・² JAMSTEC・³ 芦屋大) ○加藤泰
浩¹・鈴木勝彦²・藤永公一郎¹・西内隆純¹・黒田潤一郎²・
桑原希世子³

15:55-16:10 2E05 (12-05)

日本列島付加体中のアンバーから復元した顕生代海水
の Os 同位体比記録 (¹ 東大・² JAMSTEC) ○藤永公一
郎¹・加藤泰浩¹・鈴木勝彦²

16:10-16:25 2E06 (12-06)

古生代 Sr 同位体比 minimum: 古海山頂部石灰岩の記録
(熊本大) ○可児智美

16:25-16:40 2E07 (12-07)

愛知県下、北部秩父帯中の隣接する同時代の石灰岩体
から得られた大きく異なる Sr 同位体組成 (¹ 名大・² 宮崎
大) ○鈴木和博¹・山北聡²・浅原良浩¹・三村耕一¹・田中
剛¹

16:50-17:05 2E08 (12-08)

Re-Os 同位体による別子型塊状硫化物鉱床の生成年代
決定 (東大) ○野崎達生

17:05-17:20 2E09 (12-09)

光合成によるストロマトライト形成 (広大) ○白石史人

17:20-17:35 2E10 (12-10)

炭酸塩構造置換態硫酸の硫黄同位体比分析 (筑波大)
○丸岡照幸・鈴木紀亮

17:35-17:50 2E11 (12-11)

植物プランクトンの有機物組成がその初期分解過程に与
える影響 (¹ 筑波大・² 茨城県栽培漁業協会) ○花町優次
¹・濱健夫¹・野内孝則²

9月18日 F会場 (12号館 1F1212 講義室)

セッション 16: 大気水圏とそれらの相互作用、気候変動 (コン
ビーナー: 野尻幸宏・植松光夫・吉田尚弘)

14:50-15:10 2F01 (16-01 招待)

西部北太平洋における気候変動に対する生態系変動を
介した物質循環の変動とフィードバックの研究のための
時系列定点観測 (JAMSTEC) ○オノ野敏郎

15:10-15:25 2F02 (16-02)

溶存酸素の三種同位体組成による水圏 O₂ 収支評価～
(¹ 名大・² 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター・³ インド国
立海洋研究所・⁴ 東工大) ○阿部理¹・早川和秀²・VVSS
Sarma³・吉田尚弘⁴

15:25-15:40 2F03 (16-03)

一酸化二窒素の高精度三酸素同位体定量法開発 (北
大) ○小松大祐・石村豊穂・中川書子・角皆潤

15:40-15:55 2F04 (16-04)

太平洋中部赤道域における海洋生物起源気体による粒
子形成 (東大) 真野佑輝・井口秀憲・成田祥・岩本洋子・
○植松光夫

15:55-16:10 2F05 (16-05)

北西部北太平洋における海水中的ジメチルサルファイド
の鉛直分布の解明に関する研究 (北大) ○本間則仁・渡
辺豊・坂本愛

16:10-16:25 2F06 (16-06)

北西部北太平洋における溶存気体 N₂ と Ar の時系列変化
(¹ 北大・² 水産研究センター) ○伊藤昌稚¹・渡辺豊¹・田
中伸一²・小笠恒夫²

16:25-16:40 2F07 (16-07)

海洋表層における溶存窒素、アルゴン、酸素を用いた正
味の酸素生産速度の新たな見積もり方法 (水産研究セン
ター) ○田中伸一

16:40-16:55 2F08 (16-08)

北太平洋西部における海洋表層炭酸系の変化傾向 (¹ 気
象研究所・² 気象庁・³ 北大) ○緑川貴¹・石井雅男¹・斎藤
秀¹・時枝隆之¹・笹野大輔¹・中舘明²・吉川久幸³

16:55-17:10 2F09 (16-09)

炭素安定同位体を用いた北太平洋における人間活動起
源二酸化炭素の吸収量の変動の見積もり (¹ 北大・² 原
研) ○渡辺豊¹・千葉武史¹・田中孝幸²

17:10-17:25 2F10 (16-10)

日本—オセアニア航路貨物船を利用する海洋表層二酸
化炭素分圧定常観測 (環境研) ○野尻幸宏・津守博通・
宮崎千尋

17:25-17:40 2F11 (16-11)

北太平洋移行領域の直接通気層の経年変動性 (¹ 気象
研究所・² 気象庁) ○時枝隆之¹・石井雅男¹・斎藤秀¹・緑
川貴¹・中舘明²

17:40-17:55 2F12 (16-12)

アイトボマー比を用いた都市河川における N₂O の動態
解析 (¹ 東工大・² 農工大) ○豊田栄¹・岩井宏之¹・木庭
啓介²・吉田尚弘¹

9月19日 A会場 (13号館 2F1323 講義室)

セッション 03: 新しいサンプルリターン時代の分析法・体制とその成果 (コンピーナー: 土山明・海老原充・富岡尚敬)

09:00-09:15 3A01 (03-11)

微小試料のための希ガス抽出用加熱炉の開発 (東大)

○馬上謙一・中村好伸・赤井田智宏・長尾敬介

09:15-09:30 3A02 (03-12)

CH₃ コンドライト SaU 290 のコンドリュールの希ガス同位体組成 (東大) ○中嶋大輔・長尾敬介

09:30-09:45 3A03 (03-13)

MPGA - 中性子を利用する革新的非破壊元素分析法 (¹ 首都大・² 原研) ○海老原充¹・大浦泰嗣¹・藤嶋輔²・大島真澄²

09:45-10:00 3A04 (03-14)

放射光イメージングを用いたはやぶさサンプルの初期分析 (¹ 阪大・² SPring-8・³ 産総研・⁴ 九大・⁵ 茨大) ○土山明¹・上杉健太郎²・中野司³・中村智樹⁴・野口高明⁵

10:00-10:15 3A05 (03-15)

はやぶさサンプルの分析と期待される成果 (岩石・鉱物学) (¹ 茨大・² 九大・³ 物産機構) ○野口高明¹・中村智樹²・田中雅彦³

10:15-10:30 3A06 (03-16)

顕微分光法による地球外物質中の炭素質物質の分析 (九大) ○北島富美雄

10:45-11:00 3A07 (03-17)

惑星試料キュレーション設備について (JAXA) ○矢田達

11:00-11:15 3A08 (03-18)

ポストはやぶさ時代の始原天体探査プログラム (JAXA) ○矢野創

11:15-11:30 3A09 (03-19)

かぐやデータと月試料の融合研究が拓く月科学 (極地研) ○荒井朋子

11:30-11:45 3A10 (03-20)

リターンサンプルを基礎とした月遠隔観測の成果 (¹ 阪大・² JAXA・³ 環境研) ○佐伯和人¹・大竹真紀子²・松永恒雄³・春山純一²・岡田達明²

11:45-12:00 3A11 (03-21)

火星上空ダスト・大気サンプルリターンの可能性とその意義 (東大) ○橘省吾・杉田精司・宮本英昭・三河内岳

9月19日 B会場 (12号館 2F1225 講義室)

セッション 16: 大気水圏とそれらの相互作用、気候変動 (コンピーナー: 野尻幸宏・植松光夫・吉田尚弘)

09:00-09:15 3B01 (16-13)

生態系モデルを用いた沈降粒子中窒素安定同位体比の季節変動の解析 (¹ 北大・² 環境総合テクノス) ○重光雅仁¹・山中康裕¹・渡辺豊¹・前田亘宏²・乗木新一郎¹

09:15-09:30 3B02 (16-14)

礁斜面を含むサンゴ礁生態系の炭素循環 (東北大) ○中村隆志・中森亨

09:30-09:45 3B03 (16-15)

日本近海の表層水中における水素ガスの挙動に関する研究 (東大) ○成田拓・川口慎介・小畑元・福田秀樹・小川浩史・蒲生俊敬

09:45-10:00 3B04 (16-16)

亜熱帯海洋大気中の生物起源揮発性有機化合物の日変化 (環境研) ○横内陽子・斉藤拓也・向井人史

10:00-10:15 3B05 (16-17)

西部北太平洋亜寒帯におけるハロカーボン類の動態と大気海洋間フラックスの特徴 (環境研) ○大木淳之・横内陽子

セッション 17: 地球大気化学: ガス・エアロゾル (コンピーナー: 谷本浩志・遠嶋康徳・柳澤文孝・河村公隆)

10:25-10:40 3B06 (17-01)

東南アジア熱帯林から放出される塩化メチルとイソブレン (¹ 環境研・² 京大・³ マレーシア森林研究所・⁴ 広大) ○斉藤拓也¹・横内陽子¹・小杉緑子²・谷誠²・Philip Elizabeth³・奥田敏統⁴

10:40-10:55 3B07 (17-02)

つくばと榛名山における降下物中のプルトニウムとトリウム同位体について (気象研究所) ○廣瀬勝己

10:55-11:15 3B08 (17-03 招待)

定期航空機を利用した二酸化炭素濃度の観測とその意義 (¹ 気象研究所・² 環境研) ○松枝秀和¹・町田敏暢²・澤庸介¹

11:15-11:30 3B09 (17-04)

XANES 法を用いたエアロゾル中の還元形イオウの特定 (広大) ○東将之・三好拓朗・高橋嘉夫・清水洋

11:30-11:45 3B10 (17-05)

Ca²⁺, SO₄²⁻, NH₄⁺の3成分の三角ダイアグラムを用いた大気エアロゾルの化学的特徴の考察 (¹ 九大・² 気象研究所・³ 江戸川大) ○鈴木一成¹・五十嵐康人²・土器屋由紀子³・赤木右¹

11:45-12:00 3B11 (17-06)

国内大気降下物試料の異常ウラン同位体比 (¹ 上智大・² 東工大・³ 武蔵工大・⁴ 気象研究所) ○木川田喜一¹・小田幸平¹・大井隆夫¹・野村雅夫²・本多照幸³・廣瀬勝己⁴

9月19日 C会場 (12号館 2F1222 講義室)

セッション 19: 水圏環境地球化学 (コンピーナー: 高橋嘉夫・福士圭介・松尾基之)

09:00-09:15 3C01 (19-01)

岩石の風化生成物に基づく六甲山系河川水の水質形成過程について (神戸大) ○木村康子・寺門靖高

09:15-09:30 3C02 (19-02)

武庫川及び周辺河川水中の主成分及び希土類元素の変動 (神戸大) ○久保薫・寺門靖高

09:30-09:45 3C03 (19-03)

立山カルデラ内地表水の地球化学的特徴と山地崩壊との関連 (¹ 富山大・² 立山カルデラ砂防博物館) ○佐藤有紀¹・米谷正広²・佐竹洋¹

09:45-10:00 3C04 (19-04)

沖縄島南部地域における地下水の地球化学的特性 (富山大) ○飯野倫裕

10:00-10:15 3C05 (19-05)

火山島利尻における湧水の化学成分と同位体組成 (富山大) ○マンダラアジツクマル・張勁

10:15-10:30 3C06 (19-06)

干潟底質中の元素垂直分布への主成分分析の適応による環境変動の評価法の検討 (東大) ○諸町大地・松尾基之

10:30-10:45 3C07 (19-07)

北海道における地下水の酸化還元状態－幌延町下沼地区－ ((財)北海道科学技術総合振興センター) ○井岡聖一郎・酒井利彰・石島洋二

10:55-11:15 3C08 (19-08 招待)

無機陰イオンの環境地球化学 (¹ 北大・² 金沢大) ○佐藤努¹・福士圭介²・米田哲朗¹

11:15-11:30 3C09 (19-09)

アンチモン同位体比に基づくヒ素汚染の起源解明に向けた基礎的研究 (¹ 広大・² JAMSTEC) ○荒木祐介¹・谷水雅治²・高橋嘉夫¹

11:30-11:45 3C10 (19-10)

秋田県渋黒沢・玉川水系における強酸性温泉水由来の元素の地球化学的挙動 (慶大) ○星野友則

11:45-12:00 3C11 (19-11)

塩素同位体からみた富山降水中の塩素の挙動(2) 塩素過剰の場合 (¹ 富山大・² SUMCO) ○佐竹洋・呉佳紅

9月19日 D会場 (12号館 1F1213 講義室)

セッション 06: コア-マントル間の物質相互作用 (コンピーナー: 平田岳史・河合研志・小木曾哲)

09:00-09:20 3D01 (06-01 招待)

マントル深部の構造と対流 (九大) ○金嶋聰

09:20-09:35 3D02 (06-02)

波形インバージョンによる D"層内部の構造推定 (東工大) ○河合研志

09:35-09:55 3D03 (06-03 招待)

マントル・外核・内核間の熱的相互作用: 室内実験からの示唆 (金沢大) ○隅田育郎

09:55-10:10 3D04 (06-04)

地球試料と隕石試料中のタングステン同位体分別 (¹ 原研・² 東工大・³ 海洋) ○入澤啓太¹・深海雄介²・谷水雅治³・平田岳史¹

10:10-10:25 3D05 (06-05)

マントル中の白金族鉱物の産状: 流体と軽元素の役割 (¹ 京大・² JAMSTEC・³ SPring-8) ○小木曾哲¹・鈴木勝彦²・鈴木敏弘²・上杉健太郎³

10:25-10:40 3D06 (06-06)

Pt-Re-Os 同位体系でコア-マントル相互作用を見ることができるか? (JAMSTEC) ○鈴木勝彦

10:40-11:00 3D07 (06-07 招待)

コア-マントル境界域における元素移動の解明に向けて (東工大) ○廣瀬敬・小澤春香・館野繁彦

セッション 15: 海洋における微量元素・同位体の分布と循環 (コンピーナー: 小畑元・天川裕史・乙坂重嘉・熊本雄一郎)

11:10-11:25 3D08 (15-01)

太平洋南北縦断測線における溶存バリウムの分布: GEOSECS データとの比較 (¹ 東海大・² グローバルオーシャンディベロップメント) ○中村智巳¹・加藤義久¹・副島広道²

11:25-11:40 3D09 (15-02)

南太平洋表層におけるネオジムの供給源の解明 (日大) ○佐藤広美・田副博文・永井尚生

11:40-11:55 3D10 (15-03)

日本海深層における鉄の除去 (¹ 東大・² 滋賀県立大・³ 高知女子大) ○小畑元¹・丸尾雅啓²・一色健司³

9月19日 E会場 (12号館 1F1214 講義室)

セッション 12: 堆積物・堆積岩の地球化学 (コンピーナー: 山本鋼志・杉谷健一郎・三村耕一・加藤泰浩・丸岡照幸)

09:00-09:15 3E01 (12-12)

オホーツク海表層堆積物における有機物の起源推定 (¹北大・²環境研・³東海大・⁴JAMSTEC) ○三上裕 ¹・関幸¹・長尾誠也¹・福島正巳¹・荒巻能史²・内田昌男²・柴田康行²・南秀樹³・加藤義久³・坂本竜彦⁴・中塚武¹

09:15-09:30 3E02 (12-13)

古代ヤシおよびベネチエス化石の抵抗性高分子分析からの化学分類および続成変化の検討 (北大) ○中村英人・沢田健

09:30-09:45 3E03 (12-14)

地質調査所堆積岩標準試料の希土類元素組成 (名大) ○山本鋼志・足立守

09:45-10:00 3E04 (12-15)

九州北部・中部地域の Sr 同位体比分布 (名大) 後藤晶子・○南雅代・浅原良浩

10:00-10:20 3E05 (12-16 招待)

堆積物中のヒ素の化学状態および水—堆積物間の分配係数に基づくバングラデシュ中東部ショナルガオ地域におけるヒ素汚染地下水の分布の解釈 (¹ 広大・² 大阪市大・³ 筑波大・⁴ ダッカ大) ○板井啓明¹・高橋嘉夫¹・益田晴恵²・三田村宗樹²・丸岡照幸³・Ashraf Ali Seddique²・Kazi Matin Ahmed⁴

セッション 13: 同位体で見る地球表層環境変動 (コンピーナー: 鈴木勝彦・黒田潤一郎・西澤学・山口耕生)

10:30-10:50 3E06 (13-01 招待)

マントルの進化とプレート・スーパーブルーームのダイナミクス (東大) ○小河正基

10:50-11:10 3E07 (13-02 招待)

38～30 億年前の海洋性堆積岩に記録された初期生物圏発達史: 微小領域安定同位体分析による制約 (東北大) ○掛川武

11:10-11:30 3E08 (13-03 招待)

二酸化硫黄の光解離と太古代原生代境界の硫黄同位体異常 (¹ 東工大・² コペンハーゲン大) ○上野雄一郎¹・ダニエラチエセバスチャン¹・吉田尚弘¹・ジョンソンマシュー²

11:30-11:45 3E09 (13-04)

南中国、エディアカラ紀炭酸塩岩の高解像度炭素・酸素同位体化学層序 (東工大) ○田畑美幸・上野雄一郎・石川智子・澤木佑介・小宮剛・吉田尚弘・丸山茂徳

11:45-12:00 3E10 (13-05)

南中国三峡地域の地層に保存された Sr 同位体比変動から読みとるエディアカラ紀の表層環境変動 (東工大) ○澤木佑介・田畑美幸・小宮剛・丸山茂徳・平田岳史

9月19日 F会場 (12号館 1F1212 講義室)

セッション 11: 古気候・古環境解析の地球化学 (コンピーナー: 中塚武・原田尚美・入野智久・渡邊剛)

09:00-09:20 3F01 (11-01 招待)

淡水流入に伴う海洋炭素循環の応答 (¹JAMSTEC・² 東大・³ ミネソタ大・⁴ ブリストル大) ○近本めぐみ¹・阿部彩子²・松本克美³・リッジウエールアンディ⁴

09:20-09:40 3F02 (11-02 招待)

南西諸島の造礁サンゴ年輪を用いた過去 100 年間の海洋環境復元 (¹ 名大・² 日産自動車(株)³・岐阜大) ○阿部理¹・小林文恵²・森本真紀¹・勝田長貴³・森本昭彦¹

09:40-09:55 3F03 (11-03)

ベーリング海東部陸棚域における円石藻 *Emiliania huxleyi* ブルーム? 過去 50 年の記録? (JAMSTEC) ○原田尚美

09:55-10:10 3F04 (11-04)

ベーリング海陸棚堆積物の粒度・ESR 分析に基づく過去 80 年間の環境変動復元 (JAMSTEC) ○長島佳菜

10:10-10:25 3F05 (11-05)

サンゴ骨格に記録された窒素同位体比の季節変動: 低緯度海洋表層における栄養塩指標としての可能性 (¹ 北大・² JAMSTEC・³ 東大) ○山崎敦子¹・渡邊剛¹・川島龍憲¹・小川奈々子²・大河内直彦²・白井厚太郎³・佐野有司³・植松光夫³

10:25-10:40 3F06 (11-06)

メコンデルタ沖・コンダオ島におけるサンゴ年輪の Sr/Ca および Mg/Ca の記録: ENSO および東アジアモンスーンの監視手段としての評価 (¹ 名大・² ベトナム科学技術アカデミー・³ 名古屋工大・⁴ 環境研) ○ミツロ丈裕¹・ダンフォン²・北川浩之¹・内田哲男³・柴田康行⁴

10:50-11:05 3F07 (11-07)

軟エックス線写真・非破壊蛍光 X 線地殻コアロガー (TATSCAN) を利用した迅速なサンゴ骨格の成長量・化学組成変動分析による古環境解析手法の開発 (¹ 北大・² JAMSTEC・³ フィリピン鉱山地質局・⁴ 国立科学博物館) ○岨康輝¹・渡邊剛¹・坂本竜彦²・飯島耕一²・高沢昌芳¹・入野智久¹・アギラルヨランダ³・加瀬友喜⁴

11:05-11:20 3F08 (11-08)

鍾乳石中の微量元素成分を用いた秋吉台の植生変遷の復元 (¹ 九大・² 秋吉台科学博物館・³ 九環協) ○富田麻井¹・栗崎弘輔¹・藤川将之²・天日美薫³・吉村和久¹

11:20-11:35 3F09 (11-09)

小氷期における樹木年輪セルロースの $\delta^{18}\text{O}$ 変動パターンと、太陽活動との関連性 (¹ 東大・² JAMSTEC・³ 北大) ○山口保彦¹・横山祐典^{1,2}・宮原ひろ子¹・中塚武³

11:35-11:50 3F10 (11-10)

硬骨海綿骨格内に保存された微量元素濃度変動を用いた古環境復元への可能性 (¹ 北大・² 東大) ○大森一人¹・渡邊剛¹・白井厚太郎²

9月19日 A会場 (13号館 2F1323 講義室)

セッション 09: 島弧・海嶺衝突帯の火成作用とテクトニクス
(コンピーナー: 安間了・折橋裕二・新正裕尚・平田大二・黒澤正紀)

13:00-13:15 3A12 (09-01)

西南日本弧海溝寄り地域に分布する、中新世玄武岩質岩の微量元素・Sr-Nd-Pb 同位体組成 (¹ 東経大・² 京大・³ 東大・⁴ 産総研) ○新正裕尚¹・柴田知之²・芳川雅子²・折橋裕二³・角井朝昭⁴

13:15-13:30 3A13 (09-02)

西南日本前弧域での初期-中期中新世火成活動の時空分布 (¹ 産総研・² 東経大) ○角井朝昭¹・新正裕尚²

13:30-13:50 3A14 (09-03 招待)

西南日本弧下における過去 15My の累進的サブダクションによるフィリピン海プレートの脱水和融解 (JAMSTEC) ○木村純一

13:50-14:10 3A15 (09-04 招待)

東北日本、伊豆—小笠原弧の島弧火山活動の時空間変化から推定したマントルウェッジのダイナミクス (¹ 東大・² 東北大・³ JAMSTEC) ○本多¹・吉田武義²・青池寛³

14:10-14:25 3A16 (09-05)

南部チリ・パタゴニア地方、第四紀ハドソン火山におけるマグマティズムの変遷 (¹ 東大・² 東経大・³ チリ鉱山局・⁴ リオデジャネイロ州立大・⁵ チリ・パタゴニア研究グループ) ○折橋裕二¹・中井俊一¹・新正裕尚²・ナランホホセ³・元木昭寿⁴・クリスマシーグループ⁵

14:25-14:40 3A17 (09-06 招待)

中央海嶺沈み込み起源の花崗岩から分離したジルコンの Hf 同位体比 (¹ 東工大・² 筑波大) ○昆慶明¹・平田岳史¹・小宮剛¹・安間了²・丸山茂徳¹

14:40-14:55 3A18 (09-07)

チリ海嶺沈み込み帯にみられるオフィオライトと珪長質深成岩類 (¹ 筑波大・² 東工大・³ JAMSTEC・⁴ 岡大・⁵ 東大・⁶ オーストラリア国立大) ○安間了¹・小宮剛²・昆慶明²・渋谷岳造³・太田努⁴・折橋裕二⁵・Armstrong Richard⁶

15:05-15:20 3A19 (09-08)

オマーンオフィオライト衝上に伴う初期島弧火成活動によって形成された超塩基性岩類 (新潟大) ○山崎秀策・宮下純夫

15:20-15:40 3A20 (09-09 招待)

Supra-subduction zone ophiolite または forearc ophiolite の実体: 嶺岡帯および伊豆島弧からの制約 (¹ 筑波大・² 金沢大・³ 三菱商事) ○小川勇二郎¹・黒澤正紀¹・平野直人²・森良太³

15:40-15:55 3A21 (09-10)

堆積年代によるメランジュの間欠的底付け付加の証拠 - 西南日本四万十帯への LA-ICPMS ジルコン年代測定の適用 - (¹ 高知大・² 東大) ○柴田伊廣¹・折橋裕二²・木村学²・橋本善孝¹

15:55-16:10 3A22 (09-11)

西彼杵変成岩類のヒスイ輝石岩に含まれるジルコンの包有鉱物、U-Pb 年代、微量元素組成: TTG 質マグマの痕跡? (¹ 北九州市立自然史・歴史博物館・² 東大・³ 九大・⁴ 熊本大) ○森康¹・折橋裕二²・宮本知治³・島田和彦³・重野未来¹・西山忠男⁴

16:10-16:25 3A23 (09-12)

花崗岩プルトンの同化作用と汚染作用に関する鉱物組成と化学組成 (鹿児島大) ○山本温彦

16:25-16:40 3A24 (09-13 招待)

朝鮮半島と西南日本に分布する白亜紀から古代三紀の花崗岩類のジルコン U-Pb 年代 (¹ 東大・² 慶尚大・³ 延世大) ○パクテホ¹・岩森光¹・折橋裕二¹・左容周²・權盛澤³

16:40-17:00 3A25 (09-14 招待)

西南日本の白亜紀花崗岩類の成因と起源物質: われわれはどこまで理解しているか (産総研) ○中島隆

9月19日 B会場 (12号館 2F1225 講義室)

セッション 17: 地球大気化学: ガス・エアロゾル (コンピーナー: 谷本浩志・遠嶋康徳・柳澤文孝・河村公隆)

13:00-13:15 3B12 (17-07)

大気中の CO₂ 濃度の測定と解析 (私立武蔵高中・CO₂ 計測プロジェクト) 高江洲瑩・○浜野智広

13:15-13:30 3B13 (17-08)

中国泰山における有機エアロゾルの組成と変動 (¹ 北大・² JAMSTEC・³ 中国科学院大) ○河村公隆¹・フーピンチン¹・立花英里¹・奥沢和浩¹・アーガワルジャンカル¹・金谷有剛²・ワンジーファ³

13:30-13:45 3B14 (17-09)

放射性炭素同位体を用いた大気エアロゾル中ブラックカーボンの起源推定〜熱分離による前処理法の開発 (環境研) ○和頼朗太・内田昌男・鈴木優徳・長谷川就一・小林伸治・田邊潔・柴田康行

13:45-14:00 3B15 (17-10)

1998-2006 年の脊振山頂に降下した風送塵の Sr・Nd 同位体組成 (九大) ○宮本知治・浜本礼子・柳暉

セッション 26: 加速器質量分析が拓く地球環境学・年代学・考古化学 (コンピーナー: 南雅代・北川浩之・横山祐典・松崎浩之)

14:10-14:25 3B16 (26-01)

日本産樹木年輪試料の炭素 14 年代測定 (¹ 国立歴史民俗博物館・² 東大・³ 名大・⁴ (株)パレオ・ラボ・⁵ 奈良文化財研究所) ○尾寄大真¹・坂本稔¹・今村峯雄¹・松崎浩之²・中村俊夫³・小林紘一⁴・伊藤茂⁴・丹生越子⁴・光谷拓実⁵

14:25-14:40 3B17 (26-02)

鎌倉由比ヶ浜地域の遺跡から出土した中世人骨の ¹⁴C 年代 (名大) ○南雅代・中村俊夫

14:40-14:55 3B18 (26-03)

西南極氷床変動史の復元に向けた化合物レベル放射性炭素年代測定法の開発 (¹ 東大・² JAMSTEC・³ ライス大) ○小泉真認¹・横山祐典¹・大河内直彦²・John B Anderson³

14:55-15:15 3B19 (26-04 招待)

弘安の役元寇船建造地と岐阜県恵那市上矢作町「海」の河道閉塞を起こした天正地震の岩石なだれ—AMS 炭素 14 年代測定— (名大) ○鈴木和博

15:25-15:40 3B20 (26-05)

宇宙線照射生成核種を用いた南米、チリ・アタカマ砂漠における地表面浸食速度の定量 (¹ 東大・² 北カトリック大) ○城谷和代¹・横山祐典¹・松崎浩之¹・アンドレスヴェロソ²

15:40-15:55 3B21 (26-06)

表面照射年代から明らかになった南極氷床の最終退氷の時期 (¹ 東大・² 極地研・³ 広大) ○山根雅子¹・横山祐典¹・三浦英樹²・前李英明³・岩崎正吾³・松崎浩之¹

15:55-16:10 3B22 (26-07)

53 個の南極 Yamato 隕石中 ²⁶Al 含有量 (¹ 立正大・² 東大・³ 極地研) ○楠野葉瑠香¹・福岡孝昭¹・松崎浩之²・小島秀康³

16:10-16:25 3B23 (26-08)

水月湖堆積物の Be-10 を用いた Laschamp 地磁気エクスカッションの検出 (東大) ○横山祐典・池田悟・松崎浩之

9月19日 C会場 (12号館 2F1222 講義室)

セッション 19: 水圏環境地球化学 (コンビナー: 高橋嘉夫・福士圭介・松尾基之)

13:00-13:15 3C12 (19-12)

西表島の小流域河川(野崎川)の水質形成への人為的影響 (¹九大・²CRC 食品環境衛生研究所・³九電産業・⁴琉球大・⁵鹿児島大・⁶総合地球環境学研究所) ○江里口和隆 ¹・高嶋温子 ²・栗崎弘輔 ¹・能登征美 ³・廣瀬孝 ⁴・井倉洋二 ⁵・高相徳志郎 ⁶・吉村和久 ¹

13:15-13:30 3C13 (19-13)

土壌の酸中和能へ影響を与える交換性 Ca イオンの化学形態 (東大) ○山ノ井俊・小豆川勝見・松尾基之

13:30-13:45 3C14 (19-14)

中性付近におけるケイ酸溶液中のアルミニウム化学種のスペシエーション (九大) ○齊藤智之

13:45-14:00 3C15 (19-15)

ヒ素の拡散係数に対するイオンの形状変化の影響 (広大) ○坂光美香・高橋嘉夫

14:00-14:15 3C16 (19-16)

カルサイトへの亜ヒ酸とヒ酸の分配挙動の比較 (¹ 広大・² 原研) ○横山由佳 ¹・光延聖 ¹・田中万也 ²・高橋嘉夫 ¹

14:15-14:30 3C17 (19-17)

カルサイト及びアラゴナイトと水溶液間の希土類元素分配に関する実験的研究 (神戸大) ○傅磊・寺門靖高

14:30-14:45 3C18 (19-18)

腐植物質-水酸化鉄共存系における希土類元素の固液分配 (広大) ○山本祐平・高橋嘉夫・清水洋

14:55-15:10 3C19 (19-19)

EXAFS 法によるバクテリア細胞壁への重希土類元素の濃集機構の解明 (広大) ○山本美香

15:10-15:25 3C21 (19-21)

固液相間におけるホウ素同位体分別: 水和や圧力の影響について (¹ 東大・² 上智大・³ 東工大) ○武蔵正明 ¹・大井隆夫 ²・松尾基之 ¹・野村雅夫 ³

15:25-15:40 3C22 (19-22)

固液界面でのセレンとテルルの表面錯体: オキソアニオンの水溶性や生物利用性との関係 (広大) ○高橋嘉夫・原田哲平

15:40-15:55 3C23 (19-23)

減衰全反射赤外(ATR-IR)分光法を用いたアミノ酸の鉱物への吸着形態の解析 (阪大) ○北台紀夫・横山正・中嶋悟

15:55-16:10 3C24 (19-24)

水-フェリハイドライト界面における吸着硫酸イオンの表面化学種分布 (金沢大) ○福士圭介・青山和樹・永田貴洋

16:10-16:25 3C25 (19-25)

表面錯体モデリングによる酸化物への I-吸着の予測 (¹ 金沢大・² 広大) ○永田貴洋 ¹・福士圭介 ¹・高橋嘉夫 ²

9月19日 D会場 (12号館 1F1213 講義室)

セッション 15: 海洋における微量元素・同位体の分布と循環 (コンビナー: 小畑元・天川裕史・乙坂重嘉・熊本雄一郎)

13:00-13:20 3D11 (15-04 招待)

海洋大循環モデルによる希土類元素濃度分布の再現 (¹ 東大・² 北大) ○岡頭 ¹・羽角博康 ¹・小畑元 ¹・蒲生俊敬 ¹・山中康裕 ²

13:20-13:35 3D12 (15-05)

日本海東部における沈降粒子の元素組成の経年変化 (¹ 原研・² 北大・³ 東海大・⁴ 中央水研) ○乙坂重嘉 ¹・奥俊輔 ²・南秀樹 ³・皆川昌幸 ⁴・乗木新一郎 ²

13:35-13:50 3D13 (15-06)

西部太平洋における Cs-137 のインベントリー (放医研) ○山田正俊・王中良・鄭建

13:50-14:05 3D14 (15-07)

南北太平洋亜熱帯域における溶存無機炭素の炭素安定同位体比 (JAMSTEC) ○熊本雄一郎・村田昌彦・渡邊修一・深澤理郎

セッション 01: 地球外物質の宇宙化学: 先太陽系史から初期太陽系史 (コンビナー: 伊藤正一・塚本久義・橋省吾・日高洋)

14:15-14:35 3D15 (01-01 招待)

星形成コアの分子組成進化: 星なしコアから原始星コアまで (神戸大) ○相川祐理

14:35-14:50 3D16 (01-02)

極低温表面原子反応による水分子生成 (北大) ○大場康弘・宮内直弥・千貝健・日高宏・渡部直樹・香内晃

14:50-15:05 3D17 (01-03)

同位体イメージング法により探るマーチソン隕石有機物中の酸素同位体組成 (¹ 阪大・² 東大・³ 九大) ○橋爪光 ¹・高畑直人 ²・佐野有司 ²・奈良岡浩 ³

15:05-15:20 3D18 (01-04)

L4 Saratov 隕石中に存在するグラファイト様物質のラマン研究 (¹ 阪大・² 東京医科歯科大・³ ワシントン大・⁴ 阪大) ○森下和彦 ¹・奈良雅之 ²・甘利幸子 ³・松田准一 ⁴

15:20-15:35 3D19 (01-05)

鉄隕石中の schreibersite における希ガス同位体比分析 (阪大) ○白石智一

15:45-16:00 3D20 (01-06)

ブレソーラーSiC 粒子を取り囲む硫化物の硫黄同位体組成 (北大) ○江端新吾・坂本直哉・塚本尚義

16:00-16:20 3D21 (01-07 招待)

FUN CAI の酸素同位体組成 (ハワイ大) ○永島一秀

16:20-16:35 3D22 (01-08)

初期太陽系における酸素同位体リザーバ変動のタイミング (北大) ○伊藤正一・塚本尚義

16:35-16:50 3D23 (01-09)

太陽大気元素存在度は太陽系元素存在度と等しいか? (北大) ○塚本尚義

9月19日 E会場 (12号館 1F1214 講義室)

セッション 13: 同位体で見る地球表層環境変動 (コンビーナ
ー: 鈴木勝彦・黒田潤一郎・西澤学・山口耕生)

13:00-13:15 3E11 (13-06)

カナダ・原生代初期ヒューロニアン累層群における氷河性堆積物層のオスミウム同位体変動: 酸素増大イベントと気候変動の因果関係に与える示唆 (¹東大・²JAMSTEC・³東北大) ○関根康人¹・鈴木勝彦²・仙田量子²・田近英一¹・多田隆治¹・後藤和久³・山本信治¹・大河内直彦²・小川奈々子²

13:15-13:30 3E12 (13-07)

初期原生代「大気中酸度濃度急上昇イベント」の玄武岩に発達したラテライトの成因: 鉄と酸素の同位体からの制約 (JAMSTEC, NASA) ○山口耕生

13:30-13:45 3E13 (13-08)

SO₂ の紫外吸収スペクトルと分解時の同位体分別異常との関係 (¹九大・²ネバダ大・³岡大) ○奈良岡浩¹・ポール・ソンサイモン²・千葉仁³

13:45-14:00 3E14 (13-09)

四種硫黄同位体分析による~29 億年前の硫黄循環の推定 (東工大) ○鶴岡昂・上野雄一郎・小宮剛・西澤学・丸山茂徳・吉田尚弘

14:00-14:15 3E15 (13-10)

川砂ジルコンから読み取る花崗岩質地殻のハフニウム同位体組成進化と大陸成長 (¹東大・²東工大) ○飯塚毅¹・小宮剛²・李野修士²・丸山茂徳²・平田岳史²

14:15-14:30 3E16 (13-11)

後期太古代における生命の多様性: 炭素同位体分析による証拠 (東工大) ○吉屋一美・櫻井隆介・西澤学・上野雄一郎・小宮剛・丸山茂徳

14:40-14:55 3E17 (13-12)

原生代初期の微生物シングルセル同位体組成と生元素分布 (¹東工大・²東大) ○西澤学¹・高畑直人²・佐野有司²・上野雄一郎¹・丸山茂徳¹

14:55-15:10 3E18 (13-13)

アルタイ炭酸塩岩にみるペント紀初期の海洋環境の変動 (国立成功大) ○能田成

15:10-15:25 3E19 (13-14)

Secular change in the Os isotope composition of Early Cretaceous seawater: an indicator of a LIP-OAE link (¹JAMSTEC・²ウルビノ大³ ハワイ大) ○鈴木勝彦¹・Tejada M. L. G¹・黒田潤一郎¹・Coccioni R²・大河内直彦¹・坂本竜彦¹・巽好幸¹・Mahoney John³

15:25-15:40 3E20 (13-15)

オントンジャワ海台火山活動と白亜紀の海洋環境変動 (JAMSTEC) ○黒田潤一郎

15:40-15:55 3E21 (13-16)

結晶水合物における結晶水の同位体組成 (¹学習院大・²東工大) ○垣内正久¹・山村洋平¹・野村雅夫²

15:55-16:15 3E22 (13-17)

石筍を用いた植生に関する古環境情報の抽出 (¹九大・²秋吉台科学博物館・³九電産業) ○中尾武史¹・栗崎弘輔¹・藤川将之²・能登征美³・吉村和久¹

16:10-16:25 3E23 (13-18)

鉛同位体を用いた西部北太平洋における沈降粒子中の鉛の起源 (北大) ○永岡大輔・重光雅仁・渡辺豊・乗木新一郎

9月19日 F会場 (12号館 1F1212 講義室)

セッション 11: 古気候・古環境解析の地球化学 (コンビーナ
ー: 中塚武・原田尚美・入野智久・渡邊剛)

13:00-13:15 3F11 (11-11)

カタクティワシ・マイワシの堆積魚鱗アバダンス変動と回遊海域 (¹愛媛大・²東海大) ○加三千宣¹・武岡英隆¹・杉本隆成²

13:15-13:30 3F12 (11-12)

TEX86 による別府湾における過去 1500 年間の古水温復元 (¹北大・²愛媛大・³東海大) ○市川記央¹・山本正伸¹・沖野龍文¹・加三千宣²・杉本隆成³・武岡英隆²

13:30-13:45 3F13 (11-13)

東シナ海北部の完新世水温変動 (¹北大・²産総研・³東大) ○中西貴大¹・山本正伸¹・沖野龍文¹・入野智久¹・小田啓邦²・横山祐典³・松崎浩之³・多田隆治³

13:45-14:00 3F15 (11-15)

北アイルランド・Fallahogy 湿原における泥炭層の炭素同位体比変動の検討 (¹九大・²環境研・Göteborg Univ.³) ○大木誠吾¹・赤木右¹・北島富美雄¹・奈良岡浩¹・倉富伸一¹・加藤和浩²・Lars G. Franzén³

14:00-14:15 3F16 (11-16)

最終氷期以降のオホーツク海におけるベンチレーション変化 (JAMSTEC) ○岡崎裕典

14:15-14:30 3F17 (11-17)

二枚貝化石殻の酸素同位体比に基づく 最終氷期最盛期の日本海表層水温季節変動幅の復元 (¹北大・²静大・³産総研) ○多田圭吾¹・入野智久¹・北村晃寿²・池原研³

14:30-14:45 3F18 (11-18)

日本海秋田沖から得た海底堆積物中の同位体記録に基づく過去 5 万年にわたる水文環境復元の試み (¹JAMSTEC・²東大) ○菅寿美¹・横山祐典²・小川奈々子¹・北里洋¹・大河内直彦¹

14:45-15:00 3F19 (11-19)

日本海堆積物コアの中性子放射化分析による第四紀後期のアルカリ岩質テフラ層序の構築 (¹北大・²産総研) 任忠完¹・池原研²・○豊田和弘¹

15:10-15:25 3F20 (11-20)

後期更新世における西北極海メンデレーフ海嶺への陸起源有機物流入 (¹北大・²オハイオ州立大) ○山本正伸¹・ポリアクレオニド²

15:25-15:40 3F21 (11-21)

TEX86 による過去 15 万年間の南部南シナ海古水温復元 (¹北大・²国立台湾大) ○齋博貴¹・山本正伸¹・陳明德²

15:40-15:55 3F22 (11-22)

南極・グリーンランド氷床コアから復元した氷期・間氷期における水溶性エアロゾル (¹北大・²気象研究所・³University of Copenhagen) ○櫻井俊光¹・大野浩¹・飯塚芳徳¹・堀川信一郎¹・青木輝夫²・Johnsen Sigfus³・Dahl-Jensen Dorthe³・Steffensen J.P.³・本堂武夫¹

15:55-16:10 3F23 (11-23)

北太平洋深海底堆積物中の鉄マンガン水酸化物の Nd 同位体比の時代変化と深層水循環の復元 (名大) ○後藤久範・浅原良浩・山本鋼志

16:10-16:25 3F24 (11-24)

鮮新世のエルニーニョ: 化石サンゴ年輪に記録される大気海洋の数値変動 (¹北大・²産総研・³千葉大・⁴フィリピン鉱山地質局・⁵横国大・⁶東大・⁷国立科学博物館) ○渡邊剛¹・鈴木淳²・川島龍憲¹・見延庄士郎¹・亀尾浩司³・義島佳代²・アギューヨランダ⁴・和仁良二⁵・川幡穂高⁶・加瀬友喜⁷

16:25-16:40 3F25 (11-25)

アルケノン安定炭素同位体比による中新世後期および鮮新世の大気 CO₂ 濃度変動の復元 (¹北大・²ブリストル大) ○関宰¹・ダニエルシュミット²・河村公隆¹・パンコストリチャード²

16:40-16:55 3F26 (11-26)

後期中新世(11-10Ma)の木化石の年輪セルロースの δ¹⁸O と δ¹³C: 高時間分解能の気候変動解析の可能性 (¹北大・²大阪市立自然史博物館) ○中塚武¹・大西啓子¹・沢田健¹・中村英人¹・塚腰実²

ポスター発表 9月17日 ポスター会場

1P01 (05-P01)

中国・南アフリカ産キンバーライトとその構成鉱物の化学分析 (¹ 学習院大・² 京大・³ 東大) ○遠山知亜紀 ¹・村松康行 ¹・山本順司 ²・中井俊一 ³・兼岡一郎 ³

1P02 (05-P02)

瀬戸内火山帯の高 Mg 安山岩と玄武岩の Os 同位体比: スラブからのリサイクル vs 地殻の同化作用 (JAMSTEC) ○鈴木勝彦・仙田量子・清水健二・巽好幸

1P03 (05-P03)

シベリア産ダイヤモンドの希ガス同位体組成 (¹ 東大・² ノボシビルスク岩石鉱物研究所) ○田子修也 ¹・角野浩史 ¹・松藤京介 ¹・Zedgenizov Dmitry²・鍵裕之 ¹・長尾敬介 ¹

1P04 (07-P01)

フォルステライト多結晶体への希ガスの拡散と固溶限界 (¹ 東大・² 物材機構・³ 宇部マテリアルズ) ○小泉早苗 ¹・角野浩史 ¹・平賀岳彦 ¹・賞雅朝子 ¹・大橋直樹²・佐野聡³・長尾敬介 ¹・野津憲治 ¹

1P05 (07-P02)

海洋プレートの構成物質とスラブ流体の推定 (¹ 産総研・² 東大・³ JAMSTEC) ○中村仁美 ¹・岩森光 ²・木村純一 ³

1P06 (10-P01)

IODP Exp316 (NanTroSEIZE) における巨大分岐断層コア試料の微量元素および Sr, Pb 同位体組成 (¹JAMSTEC・²(株)マリン・ワーク・ジャパン・³阪大・⁴神戸大・⁵IODP) 石川剛志 ¹・谷水雅治 ¹・○永石一弥 ²・松岡淳 ²・廣野哲朗 ³・三島稔明 ⁴・氏家恒太郎 ¹・IODP Expedition 315, 316 乗船研究者一同 ⁵

1P07 (10-P02)

静岡県春野町地殻歪観測井における地球化学観測 (名大) ○宮川和也・川邊岩夫・山内常生・飯屋新一・伊藤武男

1P08 (104-P01)

二酸化炭素の地中貯留を想定した水—花崗岩反応実験 (慶大) ○伊藤香紫美

1P09 (14-P01)

鹿児島湾若尊火口熱水域における堆積物中の熱水変質反応 (¹ 九大・² 東大・³ 岡大) ○三好陽子 ¹・石橋純一郎 ¹・松倉誠也 ¹・中島美和子 ¹・大村亜希子 ²・前藤晃太郎 ³・山中寿朗 ³・千葉仁 ³

1P10 (14-P02)

鹿児島湾岸の温泉におけるホウ素の挙動 (九大) ○平尾真吾・石橋純一郎

1P11 (14-P03)

鳩間海丘において世界で初めて観測された「青い熱水」の形成メカニズム (¹琉球大・²九大・³JAMSTEC) ○岩田大吾 ¹・土岐知弘 ¹・大森保 ¹・石橋純一郎 ²・高井研 ³

1P12 (14-P04)

鹿児島湾若尊火口熱水域における堆積物の間隙水化学組成 (¹ 岡大・² 九大・³ 東大・⁴ 高知大) ○前藤晃太郎 ¹・山中寿朗 ¹・石橋純一郎 ²・三好陽子 ²・松倉誠也 ²・大村亜希子 ³・横山未来 ¹・岡村慶 ⁴・杉山拓 ⁴・千葉仁 ¹

1P13 (14-P05)

水質センサを搭載した AUV による沿岸海域の環境マッピング (¹ 電中研・²(株)セレス) ○宮川公雄 ¹・下島公紀 ¹・前田義明 ²

1P14 (14-P06)

島根県三瓶温泉のマンガン沈殿物生成過程における微生物の関与 (九大) ○阪本篤史・石橋純一郎・上島佳貴・笹木圭子

1P15 (18-P01)

イネ(*Oryza sativa* var. *japonica*)中の希土類元素濃度 (¹ 日本女子大・² 九大) ○宮崎あかね ¹・岩永百合 ¹・篠崎潤緑 ¹・中村歩 ¹・米津幸太郎 ²・横山拓史 ²

1P16 (18-P02)

東シベリアタイガ林の炭素固定量の年々変動を決めている要因について (¹ 北大・² ロシア科学アカデミー) ○鄭峻介 ¹・杉本敦子 ¹・T.C.Maximov²

1P17 (18-P03)

カラマツの窒素・炭素安定同位体比を用いたモンゴル森林・草原境界の環境指標 (¹ 北大・² 筑波大) ○内埜裕子 ¹・佐藤勇一 ¹・辻村真貴 ²・石川守 ¹・杉本敦子 ¹

1P18 (18-P04)

下水高度処理過程における溶存態メタンの安定同位体を用いた解析 (¹ 東工大・² 東京都) ○服部祥平 ¹・山田珪大 ¹・豊田栄 ¹・鈴木有理 ¹・藤井彩子 ¹・吉田尚弘 ¹・河野里名 ²・村山康樹 ²

1P19 (18-P05)

温暖湿潤気候下における森林土壌化学組成プロファイル (名大) ○上野振一郎

1P20 (18-P06)

酸性雨被害が見られる地域における土壌の元素分布と酸中和能との関連性 (東大) ○高橋麻子・小豆川勝見・松尾基之

1P21 (18-P07)

チャオプラヤデルタの酸性硫酸塩土壌地域における硫黄の動態 (日大) ○石谷貫悟

1P22 (18-P08)

火山性湧水によってもたらされる長野県梓川の顕著な水質変化 (農工大) ○柴田梓・木庭啓介・楊宗興

1P23 (18-P09)

放射性炭素同位体を用いた温度条件と土壌炭素分解の関係の評価～鉱物粒子による分解抑制反応の温度依存性 (¹ 環境研・² 京大) ○和穎朗太 ¹・内田昌男 ¹・北山兼弘 ²

1P24 (20-P01)

gem-アルカンの起源と汚染有機化合物 (東大) ○荻原成騎

1P25 (20-P02)

仁賀保堆積岩及び相馬沖堆積岩中の結合態マレイミド類とフタルイミド類の分析 (¹ 筑波大・² 福岡工大) ○野本光一 ¹・佐久間理子 ¹・熊谷現 ¹・三田肇 ²・野本信也 ¹

1P26 (20-P03)

クロロフィル由来物質に基づく地層有機物の熟成度指

標 (¹ 筑波大・² 福岡工大) ○佐久間理子 ¹・野本光一 ¹・熊谷現 ¹・三田肇 ²・野本信也 ¹

1P27 (20-P04)

堆積岩のクロム酸酸化で得られるフタルイミド類の起源物質 (¹ 筑波大・² 福岡工大・³ 東大) ○熊谷現 ¹・佐藤充 ¹・吉田隆広 ¹・三田肇 ²・野本光一 ¹・柏山祐一郎 ³・野本信也 ¹

1P28 (20-P05)

海底の同位体トレーサー培養実験からみた古細菌の代謝活性: バイオマーカーの分子レベル安定炭素同位体比 (JAMSTEC) ○高野淑識・野牧秀隆・小川奈々子・カ石嘉人・稲垣史生・北里洋・大河内直彦

1P29 (20-P06)

熟成作用にともなう珪質堆積岩中の炭化水素安定水素同位体比の変化 (¹ 北大・² 高知大) ○菊地徹 ¹・鈴木德行 ¹・齋藤裕之 ²

1P30 (20-P07)

海底堆積物間隙水中の酢酸の炭素安定同位体比 (¹ JAMSTEC・² 北大) ○井尻暁 ¹・原田尚美 ¹・小川奈々子 ¹・大河内直彦 ¹・坂本竜彦 ¹・中塚武 ²

1P31 (20-P08)

好熱好酸性アーキア *Sulfolobus* 増殖時の膜脂質組成への温度変動の影響 (九大) ○出水翔・北島富美雄

1P32 (20-P09)

海底熱水湧出域における高地温勾配に伴った有機物の熟成度変化 (¹ 岡大・² 静大・³ 九大・⁴ JAMSTEC) ○山中寿朗 ¹・島村翔 ¹・井上聡 ¹・前藤晃太郎 ¹・木村浩之 ²・藤野恵子 ³・木下正高 ⁴・石橋純一郎 ³

1P33 (21-P01)

アミノ酸重合反応における pH の効果 (阪大) ○坂田霞・北台紀夫・田中良典・中嶋悟

1P34 (21-P02)

蛇紋岩化反応にともなう水素発生に関する熱水実験システム (¹ 東工大・² JAMSTEC・³ 東大) ○吉崎もと子 ¹・鈴木勝彦 ²・中村謙太郎 ³・山口耕生 ²・渋谷岳造 ²・山本伸次 ¹・大森聡一 ¹・高井研 ²・丸山茂徳 ¹

1P35 (23-P01)

天然多結晶ダイヤモンド(カルボナド)のREEパターンおよび包有物の存在状態からみたカルボナドの起源 (東大) ○櫻井晴子・鍵裕之・石橋秀巳・吉野徹

1P36 (25-P01)

TIMS による微小岩石試料中の塩素同位体分析 (¹ 海技大・² 岡大・³ NASA) ○藤谷達也 ¹・岡野修 ²・中村昇 ³

1P37 (25-P02)

環境放射線のエネルギー分析による地質環境連続性の解析—ユーフラテス河流域遺跡の立地調査 (名大) ○田中剛・星野光雄・中村俊夫

1P38 (27-P01)

呑川河川水の重金属汚染評価 (慶大) ○シャルミンシャイラ

1P39 (27-P02)

淀川水系における富栄養化関連物質の広域分布と季節

変動 (¹ 近大・² 大阪市大・³ 大阪自然史博物館) ○宇根山綾香 ¹・中口譲 ¹・山崎恵美子 ¹・滝川真矢 ¹・松本郷平 ¹・中尾匡伸 ¹・中川裕美 ¹・益田晴恵 ²・中条武司 ³

1P40 (27-P03)

東京都旧中川流域河川堆積物中の六価クロム等の重金属汚染に関する地球化学的研究 (慶大) ○吉岡章

1P41 (27-P04)

淀川水系における生態系に及ぼす化学成分の影響 (¹ 近大・² 大阪市大・³ 大阪自然史博物館) ○滝川真矢 ¹・益田晴恵 ²・山崎恵美子 ¹・宇根山綾香 ¹・松本郷平 ¹・中尾匡伸 ¹・中川裕美 ¹・中口譲 ¹・中条武司 ³

1P42 (27-P05)

硫酸還元と栄養塩から見た都市河川の環境評価 (東大) ○原直樹・小豆川勝見・松尾基之

1P43 (28-P01)

東濃ウラン鉱床周辺花崗岩中炭酸塩鉱物中の希土類元素とウランに関する地球化学的研究 (慶大) ○曾我匠

1P44 (28-P02)

Shewanella putrefaciens による U(VI) の還元 (原研) ○鈴木義規・南川卓也・香西直文・大貫敏彦

1P45 (103-P01)

カルシウム同位体分析法の開発と生体試料への応用 (東工大) ○山崎絵里香

1P46 (103-P02)

放射光 X 線分析および放射性同位体分析を用いたモエジマシダ前葉体における As と P の in vivo 解析 (¹ 広大・² 東大・³ (株) フジタ・⁴ 東京理大) ○柏原輝彦 ¹・田野井慶太郎 ²・中西友子 ²・北島信行 ³・保倉明子 ⁴・中井泉 ⁴

1P47 (103-P03)

Sr 同位体トレーサーによる漆の産地決定の可能性(II) (¹ 東大・² 明大) ○中井俊一 ¹・吉田邦夫 ¹・宮崎ゆみ子 ¹・宮腰哲雄 ²・神谷嘉美 ²・本多貴之 ²

9月18日 ポスター会場

2P01 (01-P01)

Murchison 隕石中の炭酸塩の同位体組成と組織との関係 (九大) ○筒井新・奈良岡浩

2P02 (06-P01)

フォルステライト多結晶体における Pt 固溶度と拡散:コア-マントル相互作用の素過程 (¹東大・²物材機構・³宇部マテリアルズ(株)) ○賞雅朝子 ¹・平賀岳彦 ¹・中井俊一 ¹・小泉早苗 ¹・大橋直樹 ²・佐野聡 ³

2P03 (08-P01)

諏訪之瀬島火山の火山噴煙中二酸化硫黄の可視化測定 (東大) ○森俊哉

2P04 (08-P02)

Sampling and Analysis of Dissolved Noble Gases in the Porewater of Marine Sediments in Northeastern Okinawa Trough, Japan (¹東大・²台湾大) ○藍徳芳 ¹・佐野有司 ¹・高畑直人 ¹・清田馨 ¹・堤真 ¹・金子秋男 ¹・楊燦堯 ²

2P05 (08-P03)

木曽御嶽山の周辺の湧水の Li-Sr 同位体組成 ~地殻変動を伴う地下流体の起源を探る試み~ (¹JAMSTEC・²高知大・³東大) ○西尾嘉朗 ¹・岡村慶 ²・佐野有司 ³

2P06 (08-P04)

蔵王火山における酸性熱水変質による岩石中の元素挙動 (¹東北大・²秋田大) ○竹谷裕 ¹・大場司 ²・藤巻宏和 ¹

2P07 (09-P01)

LA-ICP-MS を用いたアルゼンチン南パタゴニアの Cerro Pampa アダカイトに含まれる地殻ジルコン結晶の U-Pb スポット年代と、それから構築される地殻年代発達史 (¹リオデジャネイロ州立大・²東大・³パタゴニア国立大・⁴ブエノスアイレス大・⁵神奈川県立生命の星・地球館・⁶筑波大) ○元木昭寿 ¹・折橋裕二 ²・ハラーミゲール ³・ラモスピクター ⁴・平田大二 ⁵・安間了 ⁶

2P08 (102-P01)

極東ロシア西部シホテアリンと内陸部の新生代火山活動史 (¹JAMSTEC・²ロシア科学アカデミー) ○佐藤佳子 ¹・平原由香 ¹・巽好幸 ¹・Prikhodko Vladimir ²

2P09 (11-P01)

東太平洋赤道湧昇域における堆積物中の生物起源物質の分布:カルサイト, オパール, パライト (東海大) ○小西由紀・中村智己・加藤義久・南秀樹

2P10 (11-P02)

元素・鉱物組成からみた中国長江下流域のレス・古土壤層 (¹同志社大・²兵庫教育大・³南京博物院) ○灘本信純 ¹・横尾頼子 ¹・成瀬敏郎 ²・林田明 ¹・松藤和人 ¹・房迎三 ³

2P11 (11-P03)

日本列島南西部に産出する陸成炭酸塩の年縞を利用した人為起源鉛の時間変遷推定の試み (¹(株)マリン・ワーク・ジャパン・²JAMSTEC) ○松岡淳 ¹・谷水雅治 ²

2P12 (11-P04)

フィリピン南西部の石筍記録から読み取る完新世のモン

スーン変動 (¹広大・²国立台湾大・³九大) ○堀真子 ¹・沈川洲 ²・狩野彰宏 ³

2P13 (11-P05)

名古屋クロマツ年輪セルロースの炭素同位体比変動を規定する環境要素 (名大) ○林和樹

2P14 (12-P01)

Heavy metals in Nakaumi Lagoon sediments, Japan: evaluation of present environment (¹埼玉大・²筑波大) ○BibiMst. Hawa ¹・浅枝隆 ¹・藤野毅 ¹・Ahmed Faruque ²・福島武彦 ²・丸岡照幸 ²

2P15 (12-P02)

碎屑性クロムスピネルの化学組成を用いた後背地研究の有用性とその適応例:台湾の新第三系メランジュから産出した碎屑性クロムスピネルの供給源 (筑波大) ○島村雄彦

2P16 (12-P03)

沖縄県南北両大東島に分布するドロマイト岩の微量成分含量 (群馬大) 相澤省一・○大谷沙矢香・永井昭弘

2P17 (12-P04)

高濃度 Mg, Cr 地点の発見と Pb 人為汚染の可能性—荒川上流薄川流域の地球化学図— (¹立正大・²東大) 新藤智子 ¹・○福岡孝昭 ¹・青木かおり ¹・石本光憲 ²

2P18 (12-P05)

原生代末期—古生代前期における深海の酸化還元条件:⁵⁷Fe メスバウアー分光法によるチャート中の鉄の状態分析 (東大) ○佐藤友彦・磯崎行雄・松尾基之

2P19 (12-P06)

南中国・四川省朝天におけるペルム紀中-後期境界の層序 (¹東大・²中国地質科学院) ○斎藤誠史 ¹・磯崎行雄 ¹・姚建新 ²・紀戦勝 ²

2P20 (12-P07)

カオリン粘土中におけるダイオキシン天然生成の検証:安定炭素同位体組成を指標として (¹産総研・²ニューヨーク州立大・³オレブロ大・⁴キール大・⁵産総研) ○堀井勇一 ¹・クランサチャラムカナン ²・バンバベルパート ³・ペトリックゲート ⁴・山下信義 ⁵

2P21 (12-P08)

木曽三川河口域堆積物の地球化学的特徴 (名大) ○平松裕亮・杉谷健一郎・山本鋼志・奥村文章

2P22 (28-P03)

土岐花崗岩の変質作用に伴う主要及び微量元素の分配と挙動 (武蔵工大) ○本多照幸・坪井麻里子・永田寛

2P23 (13-P01)

Sr, Nd 同位体を用いた北極圏の陸域古環境復元の試み (¹名大・²JAMSTEC・³(株)マリンワークジャパン) ○浅原良浩 ¹・竹内ふみ ¹・長島佳菜 ²・原田尚美 ²・小栗一将 ²・多田井修 ³・山本鋼志 ¹

2P24 (13-P02)

熱水性石英中の流体包有物分析による古海水組成の復元 (¹東工大・²JAMSTEC・³東大) ○齋藤拓也 ¹・渋谷岳造 ²・西澤学 ¹・北島宏輝 ³・昆慶明 ¹・澤木佑介 ¹・小宮剛 ¹・平田岳史 ¹・丸山茂徳 ¹

2P25 (13-P03)

鉛同位体比を用いた土壤中鉛の由来解析 (産総研) ○
原淳子・駒井武・川辺能成

2P26 (13-P04)

太古代の浅海炭酸塩岩に含まれる黄鉄鉱の局所鉄同位
体組成 (東工大) 山本洋輝・平田岳史・○西澤学・上野
雄一郎・小宮剛・丸山茂徳

2P27 (13-P05)

有孔虫炭酸塩殻中の Nd 同位体比と希土類元素組成
(名大) ○堀川恵司・浅原良浩・山本鋼志

2P28 (13-P06)

Chukchi~Bering 海表層堆積物中のブラックカーボンの
起源識別 (¹ 東葉大・² 環境研) ○熊田英峰 ¹・内田昌男
²・藤原祺多夫 ¹・青木元秀 ¹

2P29 (15-P01)

北西太平洋における粒子態プルトニウムの季節変動 (放
医研) ○鄭建・山田政俊

2P30 (15-P02)

河口・沿岸域における重金属元素と希土類元素の濃度分
布について (放医研) 高田兵衛・○青野辰雄・田上恵子・
内田滋夫

2P31 (15-P03)

日本全国沿岸海域の地球化学図と元素分布の特徴につ
いて (産総研) ○今井登・寺島滋・御子柴真澄・岡井貴
司・太田充恒・立花好子

2P32 (104-P02)

現場型超大容量海水濾過装置を用いた青森県六ヶ所村
沖における溶存態 Cs-137 の分布について (放医研) ○
中西貴宏・青野辰雄・日下部正志

2P33 (16-P01)

アイトポマー比を用いた東部北太平洋における N₂O の
動態解析 (¹ 東工大・² 酪農学園大) ○宮袋智弘 ¹・豊田
栄 ¹・吉田磨 ²・吉田尚弘 ¹

2P34 (16-P02)

エアロゾル粒子中のカルシウム化学種の粒径依存性 (¹
広大・² 産総研・³ 中国科学院) ○三好拓朗 ¹・高橋嘉夫 ¹・
東将之 ¹・金井豊 ²・張仁健 ³・清水洋 ¹

2P35 (16-P03)

北太平洋 WOCE-P01・P03 におけるメタンの挙動 (¹ 酪
農学園大・² 太平洋セメント・³ 東工大・⁴ JAMSTEC) ○今
井翔 ¹・吉田磨 ¹・河野恒平 ²・豊田栄 ³・藤井彩子 ³・山田
桂大 ³・渡邊修一 ⁴・吉田尚弘 ³

2P36 (16-P04)

落石岬における春～夏季の大気中酸素/窒素比の高まり
の起源 (¹ 環境研・² (財) 地球・人間環境フォーラム・
³ JAMSTEC) ○山岸洋明 ¹・遠嶋康徳 ¹・向井人史 ¹・島野
富士雄 ²・曾継業 ¹・笹岡晃征 ³

2P37 (17-P01)

2007、2008 年東大阪市で観測された黄砂粒子の個別粒
子分析 (近大) ○山口和宏・中口譲

2P38 (17-P02)

大気中 He 同位体比の緯度分布 (東大) ○古川由紀子・

高畑直人・佐野有司

2P39 (17-P03)

大気中酸素濃度の観測に基づく炭素収支の推定 (環境
研) ○遠嶋康徳・向井人史・山岸洋明・野尻幸宏・町田敏
暢

2P40 (17-P04)

定期貨物商船を用いた西武太平洋洋上大気中一酸化炭
素の連続観測 (環境研) ○奈良英樹・野尻幸宏・谷本浩
志・向井人史・町田敏暢・遠嶋康徳

2P41 (17-P05)

つくばにおいて観測されたダスト及び水溶性化学成分の
沈着量の季節変動 (気象研究所) ○猪股弥生

2P42 (19-P01)

鹿児島県シラス台地の水環境 (鹿児島大) ○児玉将大・
山本温彦

2P43 (19-P02)

溶存硫化物による還元に伴う酸素分子の酸素同位体分
別 (¹ 北大・² ネバダ大) ○大場康弘 ¹・ポールソンサイモ
ン ²

2P44 (19-P03)

亜熱帯島嶼西表島における河川水の水質形成 (¹ 九大・
² CRC 食品環境衛生研究所・³ 九電産業・⁴ 琉球大・⁵ 鹿児
島大・⁶ 総合地球環境学研究所) ○江里口和隆 ¹・高嶋温
子 ²・栗崎弘輔 ¹・能登征美 ³・廣瀬孝 ⁴・井倉洋二 ⁵・高相
徳志郎 ⁶・吉村和久 ¹

2P45 (19-P04)

湖沼水の土壌浸透に伴う水質組成の変化とその要因一
茨城県菅生沼一 (東京理大) ○大城恵理・村松容一

2P46 (19-P05)

硝酸性窒素汚染が進む地下水の地球化学特性一 下総台
地北西部一 (東京理大) ○村松容一・荒井寛末・中山ふ
み乃・近藤史也

2P47 (19-P06)

水分析における面的リアルタイム観測の意義と展望 (東
大) ○杉本雅明・齊藤友比古

2P48 (19-P07)

沖縄県石垣島・西表島の河川水質に地質が及ぼす影響
(¹ 東大・² 産総研) ○牛江裕行 ¹・鈴木淳 ²・川幡穂高 ³

2P49 (19-P08)

溶存有機物および無機元素による十勝平野褐色地下水
の分類 (電中研) ○伊藤由紀

2P50 (22-P01)

NanoSIMS によるサメの歯のストロンチウム同位体比分
析 (東大) ○豊島考作・高畑直人・白井厚太郎・北島宏
輝・天川裕史・佐野有司

2P51 (26-P01)

炭素年代測定とステロール分析を用いた土器による古食
性研究 (¹ 国立歴史民俗博物館・² ICU・³ お茶の水女子
大・⁴ (株) パレオ・ラボ) ○宮田佳樹 ¹・堀内晶子 ²・近藤恵
³・遠部慎 ¹・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ ⁴・西本
豊広 ¹